

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1153

「NEWSな濟生人」
「濟生会の不易流行論」
連載200回突破



7
July 2025

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

202

生活と健康



2019年9月、オランダへ
障害者問題の調査で出向いたこ
とがある。4日間の滞在に過ぎ
ない短い旅だったが、不在の間
の仕事をおろそかに済ませてお
かねばと、出発前にハードな時

間を送った。そして清々しい気
持ちで成田を飛び立った。
オランダは初めてだったが、
以前から強い関心を持っていた。
天然資源に恵まれないが、探求
心や冒険心に富んだ国民がオラ

ンダを発展させた。

いつも世界の最先端分野に挑
戦するのが、オランダの真骨頂
だ。賛否が分かれるが、安楽死
を認める法律を早くも2002

年に制定した。介護保険も19
68年に世界に先駆けて創設し、
日本は介護保険導入の時に参考
にした。障害者分野でも201
4年に法律を制定し、福祉就労
を全廃し、就労能力のある障害
者はすべて企業、自治体やソー
シャルファーム等で働くインク
ルージブ就労の体制に移行した。
このようなオランダだから知
りたいことが山ほどあった。時
間を惜しんでアムステルダムを
中心に各地を訪ねた。1日5カ
所ほどの訪問と盛りだくさんの
プログラムだった。オランダの
人たちは東洋からの客を親切に
応えてくれた。ランチを食べな
がらのデイスカッションも組ま
れた。それだけに満足できる成
果が得られた。

旅行中、背中に時々鋭い痛み
が走った。緊張していたので我
慢できた。帰国の翌日、近所の
クリニックに駆け込んだ。過労
が原因の帯状疱疹という診断だ
った。出発前の疲労に加え、外

国旅行の過重な行動が原因であ
ることは、明らかだ。やはり病
気の原因は日々の生活の送り方
にあると改めて教えられた。

☆ ☆

病気は日々の生活との関係が
切り離せない。病気の原因もそ
うだが、治療効果を上げるた
めには生活の改善がポイントにな
る。超高齢社会を迎え、多くの
高齢者は病気と共生しながら生
活を送る。患者の生活を考慮し
た医療が重要になった。

済生会の病院は元来住民にと
もに歩んできたので、自ずとこ
の面での医療が心がけられてき
た。近年、「治療する医療」から
「支える医療」の時代と言われ
ているが、これを効果的に実行
するためにも欠かせぬ視点であ
る。

本年10月に創立10周年を迎え
る岩手県済生会陸前高田診療
所の伊東紘一所長は、東日本大
震災被災から立ち上がる住民の
方々に、「総合診療医」の目で
あらゆる疾病の診療に当たら
れてきた。この間診察した延べ
14万人の患者の記録は、住民の
生活を支える医療の実践の積み
重ねである。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。
済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

SMBC

SMBCグループ

あなたの物語を
聞かせてください。

人に物語があるように、
人の資産にも、
それぞれの物語があります。
私たちは、
その物語を大切にしながら
あなたの明日に
寄り添っていききたい。



いっしょに、明日のこと。
Share the Future

SMBC日興証券

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

11月9日に福井県で開かれる全国
済生会親善ソフトボール大会出場
に向け、各ブロックで熱戦が繰り
広げられています。済生記者など
から臨場感のある写真がたくさん
届きました。
5月に行なわれた「看護の日」イ
ベント、今月も特設コーナーで紹
介します。



The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?

表紙のことば

黒い羽に宿る甘い香り

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

強い日差しの中を蝶が優雅に飛んでいます。ジャコウアゲハはウマノスズクサという毒草を食べます。その毒を持つため、天敵がなくゆっくりと優雅に飛ぶことができます。名前は、麝香鹿の香囊から取れ

る貴重な生薬に似た香りがすることからつけられています。この麝香、香水としてクレオパトラも使っていたとか。美しく黒い羽と、毒と、魅惑的な香り。夏、異世界に誘うように飛ぶ神秘的な蝶です。



済生

SAISEI

CONTENTS

JULY, 2025

NEWSな済生人 特別インタビュー

「済生会の不易流行論」連載200回突破

済生会をひとつに!

毎月のコラムで思いを直接届ける

済生会 理事長

06

炭谷 茂さん

済生会交差点

《グループホームで働く看護師》障がい者の

高齢化を踏まえ、介護・医療面のサポートを

充実／《離院・離棟患者検索訓練》患者さん

がいない!? 離院・離棟訓練で課題を共有／

《アウトリーチで母子支援》病院が地域のハ

ブとなり、多職種チームで母子をサポート

「なでしこキラキラWAY」

10

機関誌「済生」が 連載 創刊100年!

20

巻頭コラム 済生会の不易流行論

生活と健康 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

17

この人 ウエンツ瑛士

22

口福につぼん

吉井省一

24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

26

TOPICS

28

載々、大雑報

82

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



生活困窮者を支援する「なでしこプラン」では日雇い労働者に予防接種や健診などを行なう。上は大阪府済生会の釜ヶ崎健診。下は神奈川県済生会の横浜市寿地区健診

NEWSな済生人 Interview

ことを肌で感じていました。本来、組織は一体として動いてこそ力を発揮できます。バラバラなままでは、待ち受ける時代の変化を乗り切れない。そこで、私の考えを直接伝える手法として、毎月のコラム連載を始めました。単なる読み物ではない。非常に重い意味を持って書いています。

—— 済生会を一つにするという思いで取り組まれてきたんですね。職員や患者さんなどから、反応が返ってくることもあるのでしょうか。

炭谷 たくさんあります。例えば、精神障害者をめぐる問題について書いたときには、

—— コラムの第1回では「一言」に揺れる患者満足度」と題してサービスの質の大切さを訴えています。なぜこのテーマを選ばれたのですか。

炭谷 いい医療・福祉の原点は、サービスの質にあると考えているからです。提供する

いい医療・福祉の原点は相手の気持ちを推し測ること

炭谷 中学生が読んでも分かるくらい明快で具体的に、興味を持っていただけるように書いています。また、借り物の話は心を打ちませんから、必ず自分の経験を入れるようにしています。そして最後に抽象化させて言いたいことを訴える。いつもそのように書いています。

—— 身が引き締まる思いです。

炭谷 いきいきとウェルビーイングな自立した人生の手助けをするのが医療や福祉であらうと考えますが、残念ながら、医療人や福祉人の全員がそうした気持ちを持っていくわけはありません。だからこそ、済生会の基本は、満足できる人生の手助けをして、患者さんや利用者さんの心を掴んでいくことだと思います。



「不易流行論」の連載第1回(右)と第200回



済生会 理事長

炭谷 茂さん

済生会をひとつに！ 毎月のコラムで 思いを直接届ける

特別
インタビュー

「済生会の不易流行論」

連載200回

突破

「済生会スピリット」で我々が 日本の医療と福祉をリードする

本誌で平成20(2008)年にスタートした炭谷理事長の巻頭コラム「済生会の不易流行論」。本年6月号で第201回となりました。連載開始から17年間、済生会の「あるべき姿」を毎月伝えていきます。社会情勢のあおりの中で設立以来最大の赤字を計上した済生会。経営危機をどのようにして乗り越えるのか……。これまで、そしてこれからのコラムに込める炭谷理事長の思いを聞きました。(本部広報課)

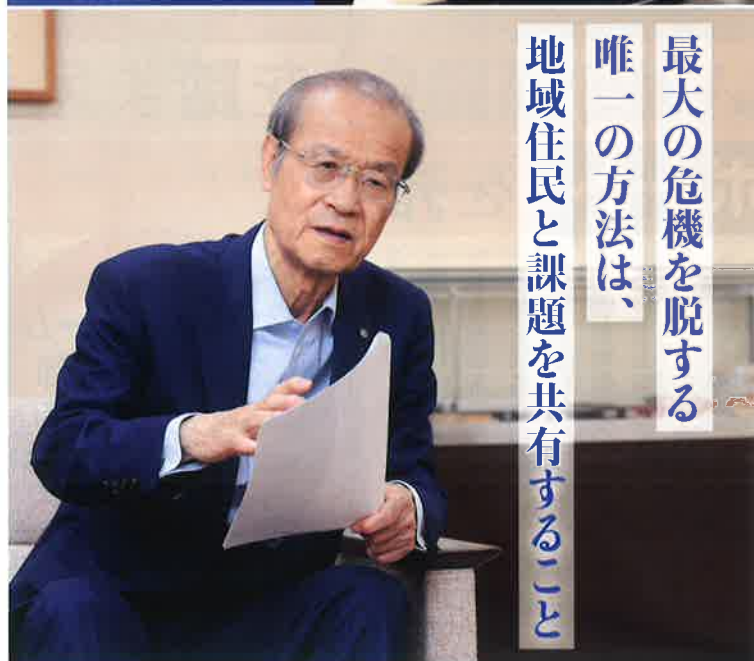
—— 「不易流行論」というタイトルには、本会が築いてきた価値を守りながら、時代の変化に適応しなければならないという強い意志を感じます。

炭谷 平成20年に理事長を拝命して、まず心配したのは、本部の考えが全国の支部や病院・施設に伝わっているかということでした。昭和20年代から続く分権制度によって、各拠点が他を考えず独立して経営している

済生会の内外に理念や方針等を発信することを責務と考え、週2本のペースで原稿を執筆し続ける



医療施設事務長会議で済生会の経営基本方針を訴えた



最大の危機を脱する 唯一の方法は、 地域住民と課題を共有すること

最大の危機を脱する唯一の方法は、地域住民と課題を共有すること。これは、本会の経営基本方針でも、戦後最大の危機であるという認識を役員全員で共有することです。次に、本部と支部、病院や福祉施設が一体となって、済生会のブランド力を高め、ダイバーシティ&インクルージョンを尊重した職場づくり、インクルーシブ社会への貢献を一層行ないます。経営危機の背景には患者さんや利用者さんの減少もありますから、ここでもやはり、他の団体にはない済生会スピリットによって「済生会があれば安心だ」と思ってもらうことが重要になってきます。

——経営改善に直結する動きについてはいかがでしょうか。
炭谷 「治療を待っている患者さんはいらっしゃいます。本会に看護職員不足のため病棟を閉じている」という話をよく聞きます。本会全体で優秀な人材の確保と定着に取り組みます。病院や施設は各地域の事情を踏まえて改善に取り組む、本部と支部が支援・指導することも大切で、そして、資金援助や制度面の問題は、国や自治体に要望・要請を出していくことも済生会本部の役割だと考えています。

炭谷 済生会は令和6年度決算で設立以来最大の赤字となりました。物価上昇や人件費高騰という経済の大きな変動の一方で、診療報酬制度や介護報酬制度がそれに適応できていないという問題が根本にあります。——厳しい経営環境の中、本会は今年度からの3年間で経営基盤強化・再建を推進する方針を定めました。どのような取り組みを進めますか。
炭谷 まずは「どこも赤字だから仕方がない」と考えるのではなく、戦後最大の危機であるという認識を役員全員で共有することです。次に、本部と支部、病院や福祉

施設が一体となって、済生会のブランド力を高め、ダイバーシティ&インクルージョンを尊重した職場づくり、インクルーシブ社会への貢献を一層行ないます。経営危機の背景には患者さんや利用者さんの減少もありますから、ここでもやはり、他の団体にはない済生会スピリットによって「済生会があれば安心だ」と思ってもらうことが重要になってきます。

——「構造的な問題だからしょうがない」ではなく、それを変えていこうという気概が必要ということですね。
炭谷 現在の日本で、済生会がどう位置付けられているか考えることが非常に重要です。社会問題に取り組むために設立されたが、行政や大学の先生の中には「もう古い組織じゃないか」という意識を持っている人が多くありません。しかし、社会問題は時代を追うごとにむしろ増え、複合化し、差別的に絡み合っている状況です。済生会のように医療と福祉、あらゆる手段を持つからこそ、適切な対応を示すことができるはずです。

——危機であると同時に済生会の使命を果たす局面でもあるということですね。
炭谷 患者さんや利用者さんはどのような生活状況にあっても、それぞれ複雑な問題を抱えていて、良い人生にしようと生きています。我々は彼らと一緒に考えて考え、悩み、解決していく。インクルーシブ社会は、住民の方々が助けあって孤立し排除されている人を地域社会の中に入れていこうというものです。彼らがもし「済生会と一緒にいって地域の課題に関わってほしい」と思えば、我々を支える立場になってくれます。我々が今直面している最大の危機を脱する唯一の方法は、国や自治体だけでなく、住民と一緒に歩むことなのだと思います。これからのコラムを通して思いを直接届けていきます。

——自然災害やコロナ禍、入院や施設への入所など、今まで通りの生活ができない面で、日常をどのように支援するのかということでもありますね。
炭谷 その通りです。従来は治す医療、そして高齢化社会になってくると支える医療が普及してきましたが、これからは日常の生活、もっと言えば人生を支えるサービスとして、医療や福祉の概念そのものを変える時期にきています。

——本会の障害者就労支援施設取材の際、支える・支えられるというあり方ではなく、職員と利用者さんが一緒に作業をして、同じ経験を分かち合っているように感じました。
炭谷 まさに重要な感覚ですね。済生会が誰一人取り残さず、すべての人が地域社会に参加し、共生する「ソーシャルインクルージョンのまちづくり」に取り組んでいますが、難しいことではないのです。日常的に一緒に働く、学ぶ、遊ぶ、生活をする。そこで自然と生まれるつながりがこそがソーシャルインクルージョンだと思います。

——「構造的な問題だからしょうがない」ではなく、それを変えていこうという気概が必要ということですね。
炭谷 現在の日本で、済生会がどう位置付けられているか考えることが非常に重要です。社会問題に取り組むために設立されたが、行政や大学の先生の中には「もう古い組織じゃないか」という意識を持っている人が多くありません。しかし、社会問題は時代を追うごとにむしろ増え、複合化し、差別的に絡み合っている状況です。済生会のように医療と福祉、あらゆる手段を持つからこそ、適切な対応を示すことができるはずです。

——危機であると同時に済生会の使命を果たす局面でもあるということですね。
炭谷 患者さんや利用者さんはどのような生活状況にあっても、それぞれ複雑な問題を抱えていて、良い人生にしようと生きています。我々は彼らと一緒に考えて考え、悩み、解決していく。インクルーシブ社会は、住民の方々が助けあって孤立し排除されている人を地域社会の中に入れていこうというものです。彼らがもし「済生会と一緒にいって地域の課題に関わってほしい」と思えば、我々を支える立場になってくれます。我々が今直面している最大の危機を脱する唯一の方法は、国や自治体だけでなく、住民と一緒に歩むことなのだと思います。これからのコラムを通して思いを直接届けていきます。



山口刑務所で介護福祉士実務者研修を実施。出所後の就労確保を支援している



ダイバーシティ&インクルージョンの推進を議論する「D&I検討会」では、済生会が多様な人材が働きやすい職場として選ばれ、協働できる場となることを検討した

——「構造的な問題だからしょうがない」ではなく、それを変えていこうという気概が必要ということですね。
炭谷 現在の日本で、済生会がどう位置付けられているか考えることが非常に重要です。社会問題に取り組むために設立されたが、行政や大学の先生の中には「もう古い組織じゃないか」という意識を持っている人が多くありません。しかし、社会問題は時代を追うごとにむしろ増え、複合化し、差別的に絡み合っている状況です。済生会のように医療と福祉、あらゆる手段を持つからこそ、適切な対応を示すことができるはずです。

——危機であると同時に済生会の使命を果たす局面でもあるということですね。
炭谷 患者さんや利用者さんはどのような生活状況にあっても、それぞれ複雑な問題を抱えていて、良い人生にしようと生きています。我々は彼らと一緒に考えて考え、悩み、解決していく。インクルーシブ社会は、住民の方々が助けあって孤立し排除されている人を地域社会の中に入れていこうというものです。彼らがもし「済生会と一緒にいって地域の課題に関わってほしい」と思えば、我々を支える立場になってくれます。我々が今直面している最大の危機を脱する唯一の方法は、国や自治体だけでなく、住民と一緒に歩むことなのだと思います。これからのコラムを通して思いを直接届けていきます。

障がいなどが原因で点眼が苦手な利用者さんでも、自己点眼できるよう紙コップで補助具を作成

内服管理を行なう利用者さんの障がい特性に応じて、服薬ケースやカレンダー形式によるものなど、ツールを使い分けている



障がい者の高齢化を踏まえ

介護・医療面のサポートを充実



筆者の久山さん

2004年4月の開設以来、熊本福祉センターは障がいがある利用者さんに就労、生活の場を提供し、必要な支援サービスを行なっています。この20年の経過とともに、グループホーム事業所では利用者全体に対する65歳以上の割合が徐々に増し、直近の10年では3・4%（3人）から20・3%（16人）になるなど高齢化が進んできました。また、知的障がいのある方は年齢とともに心身の機能が低下しやすい傾向にあり、早い段階で高齢化に即した介護・医療面でのサポートを要するため、体

グループホームで働く看護師

熊本福祉センター
済生会グループホーム事業所
看護師
久山美穂子

制面の充実が喫緊の課題でした。特に医療面の支援については、利用者さんの意思決定の際に医学的な知見を分かりやすく伝えることが重要で、さらに関係者への正確な情報伝達も必要となるなど、支援の質の向上を第一の目的として看護師を増員する必要がありました。

障がい者グループホームで看護師が担う役割とは

24年以降、看護師は4人体制となり、月70〜90件の利用者さんの通院に同行し受診介助を行なっています。同行の際は、利用者さんから事前に主治医に伝えたいことと、看護師から主治医に報告したいことをすり合わせ、意思決定に必要な情報を提供しながら受診に臨みます。また支援員、関係機関、家族にも本人の同意がない状態で物事が勝手に進まないように働きかけを行なうとともに、主治医に本人の思いと正確な情報が伝わるように努めています。

内服管理を行なっている利用者さんは38人で、本人の自立度と希望のバランスを取りながら個別に対応しています。『屯用』『適宜塗布』『適宜点眼』などの

医師による指示は、障がい特性により理解が難しく、「タイミングを自分で判断できない」「不安」という利用者さんも多く、頻回な訪問や電話で状態確認を行ない、適切なタイミングをお知らせしています。

また、医療面での自立に関しても看護の視点で支援しています。例えば『自立度が高いにもかかわらず自分で目薬をさせない』という困りごとを本人とのコミュニケーションによって引



現在14のグループホーム（定員90人）を運営



検索前に患者情報を共有



検索には各部署長が参加

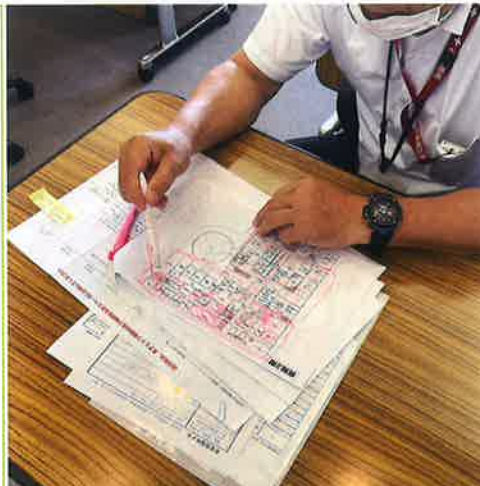
当日は各部署から約20人のスタッフが参加し、医療安全対策室長の山城輝久医師が患者役として病院内を歩き回った後、地下



実際に隠れていた場所

病院地下

患者役の山城医師が見つかった場所



院内マップを塗りつぶして検索範囲を限定していく



筆者の浅野さん

してきましたが、実際に発生した時の初動捜索におけるスタッフ間の連携不足が課題となっていました。

「ト」を作成。職員ポケットモニユアルにも掲載して職員に周知

そこで、2024年5月に医療安全対策室が対策を見直し、新たに対応一覧表を作成しました。

**院内マップを使って
検索範囲の絞り込み**

対応一覧表では、平日の勤務時間内と、夜間休日の時間外に分けて、誰が行なうのか、警察への通報を含めて分かりやすくまとめてあります。また、病院内のマップも記載されていて、患者さんがいないことを確認

認できた場所を塗りつぶしていくことで、検索範囲の絞り込みやスタッフ間の情報共有ができるようにしました。

しかし、「いくら対応策を机上で準備したとしても、実地での訓練が必要ではないか」という声が上がりました。そこで、見直したマニュアルに即した形で、昨年8月30日に患者さんの無断離院・離棟を想定した捜索訓練を実施しました。

当日は各部署から約20人のスタッフが参加し、医療安全対策室長の山城輝久医師が患者役として病院内を歩き回った後、地下

離院・離棟患者 捜索訓練

〈石川〉金沢病院

済生記者

浅野幸恵

患者さんがいない!? 離院・離棟訓練で課題を共有

当院では2023年度に、患者さんが無断で離院・離棟するインシデントが5件発生。中でも多いのが高次脳機能障害により、普段の生活環境との違いに混乱してしまい、病室を離れてしまう事案です。多くは職員の捜索により病院内で無事発

見されましたが、何と自宅に戻っていたケースもありました。

患者さんが離院・離棟すると、事故や事件に巻き込まれたり、病状の悪化を招いたりして、患者さん自身に不利益が生じる可能性が高く、また、病院にとつ

ても管理や信用に関わる非常に大きな問題となります。

その対策として当院では、「無断離院・離棟対応フローチャー

実践的な職員研修で さらなる支援の充実を

グループホームでのサービス提供の主軸は、いつも利用者さんのそばにいる支援員です。しかし、未経験の疾病に対して介護分野の特技や知識が不可欠になった昨今、看護師が不在でも対応できるよう、医療面や感染対策の研修、タイムリーな疾病・手技の勉強会に力を入れてきました。特に感染対策は途切れると記憶が薄れるため、感染防

護用ガウンの着脱や嘔吐物処理の実践など、参加者が飽きないように毎月テーマを変え、短時間・小分けで行なう参加型の研修会を実施してきました。

このような実践的な研修は「必要になったときに落ち着いて対応できた」「医療的知識の習得がしやすい環境になった」など支援員からも好評で、講師を担当する看護師にとつての自信にもつながっています。

今後は、勉強会や感染対策の定期研修は継続しながらも、これまで行き届かなかった自立度が比較的高い利用者さんのグループホームへの定期訪問なども

行ない健康管理を充実させ、課題とされる口腔衛生にも力を入れたと考えています。

すべての職種と仕事に敬意を払いながら、充実した健康管理を特徴とするグループホーム事業所となるべく、チームで利用者さんの支援に取り組んでいきます。

あなたの写真が カレンダーに!!!

【4年目に突入。大好評のため、今年も実施します】
11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象
機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント!

【撮影】大きく引き延ばすので正確なピントと露出に【構図】横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外
【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上【参加資格】本会支部・施設の職員
各支部・施設の済生記者を通じて、ぜひご寄稿よろしくお願いします!!



左から福祉医療支援課課長・東秀彦さん、小児科科長・小川哲さん、看護部長・村上志保さん、看護師長・酒井淳子さん、福祉医療支援課・田崎千里さん、看護主任・島津友美さん

**妊婦も子どもも
誰一人取り残さない**

吹田病院はNICU（新生児集中治療室）やGCU（新生児回復室）を持ち、2007年には大阪府で最初に「地域周産期母子医療センター」に登録。さらに府の産科産婦人科診療相互援助システム「OGCS」にも協力、24時間365日体制で専

門的医療を提供し、地域の母子のサポートを行なっています。また、産科、小児科、福祉医療支援課など院内多職種で連携し「養育支援の必要な妊娠等悩み相談事業」「子ども見守り隊」「院内子ども虐待防止チーム（CPT）」など、地域で子育てをする親と子どもを支えるプロジェクト活動にも力を注いでいます。そうしたさまざまなプロジェクトを土台とし、23年に開始したのが「なでしこキラキラWAY」事業です。これは、必要な支援が届いていない母子に、産前から病院が



「支援が必要な状況であればあるほど、自らSOSが発することができない状態になっていることが多いんです」（看護部長・村上志保さん）

抱えている方に、病院だからこそできることはないと、どうしようかという思いがずっとあった」と話します。

孤独な子育てにつながってしまいう可能性がとても高いお母さんたちに対して、行政と橋渡しをするハブのような役割を担うことができれば、病院を離れた後も継続した支援につながり、地

域で安心して子育てができる環境をつくれるはずだ——この思いから、「なでしこキラキラWAY」の活動が始まりました。キラキラWAYのプロジェクトには助産師、ソーシャルワーカー、産婦人科医師など多職種が参加。初診時には全妊婦に対して助産師が面談を行ないますが、少しでも気になる人がいればリストアップし助産師外来を予約します。早期に専任助産師を決めることで、顔見知りとなり、何でも話せる関係性を築くことが目的です。会話の中で、本人がどんなことに困りごとを感じているか、自身のこと、家族背景などを少しずつ紐解いていき、必要な人には自宅を訪ね一緒に出産や育児に必要な物品をそろえたり、行政への提出書類を作成したりといったサポートもします。

小児科と産婦人科では、毎週カンファレンスを開き、支援が必要な妊婦の背景について共有さらに行政や地域の関係機関とも連携しながら、まずは一人ひとりに対応していくことが、支援の届かない妊婦のいない地域の実現につながっていくものと考え、活動しています。



「医療的ハイリスクと社会的困難、どちらにも対応できる当院だからこそできる支援がある」と語る島塚英院長

積極的に働きかけるアウトリーチ支援です。

「特定妊婦」などの場合、妊娠届が未提出で母子手帳が交付されておらず、公的支援の対象になっていないことも。望ましい妊娠や経済的困難を抱え、定期健診にも通うことのないまま、誰にも相談できずに出産に至るケースも珍しくありません。そのような妊婦たちを見逃さずことなく、早期に発見し適切なサポートにつなぐためには、支援側から働きかけ



るアウトリーチ型の支援が大切です。

アウトリーチ で母子支援

〈大阪〉
吹田病院

病院が地域のハブとなり 多職種チームで母子をサポート 「なでしこキラキラWAY」

近年、生活困窮や自身・パートナーの生育歴、ドメスティック・バイオレンス（DV）などの理由のほか、遠方にパートナーがいて支援が受けられない、核家族化や出産の高齢化が進



医療安全対策室のメンバー

の機械室の外、地上に上がる外階段に隠れました。

その後、病棟管理者から初動捜索の連絡を受けたスタッフが院内マップと患者情報メモを片手に、グループに分かれて担当場所の一斉捜索を行ないました。一度目の捜索では発見できず、各人が自分の管轄を再度くまなく捜索。ようやく患者役の医師を発見したのは開始から17分後のことでした。

徘徊の増加に備えた 実地訓練が必要

認することが大切であることを話し合いました。警備担当者が「10分もあれば離院できる」という言葉のとおり、速やかな初動と一斉捜索がいかに大切であるかを実感しました。

訓練後の医療安全対策室会議でも対応について振り返りを行ないました。その中でいくつかの改善を施すことに。①各部署長に電話をして招集していただき時間がかるため院内放送に変更、②捜索マップは防災センター・医療安全対策室・各部署に印刷して設置すること、③夜間休日の管理者の招集場所は防災センターにすること。これ

らを加えて昨年10月にマニュアルが更新されました。

今後、入院患者のさらなる高齢化に伴い、認知症やせん妄による徘徊が増え、その中には離棟や離院につながるケースも増えることが予想されます。その対策やマニュアルの整備はもちろん必要ですが、それだけではなく、火災時の避難訓練と同様、実地での捜索訓練も必要ではないかと思っています。

最後に、入院患者の離院・離棟問題は、転倒・転落問題と同様、医療安全上の大きな課題と認識し、病院全体で取り組むべきだと思っています。

北上×習志野 地域をつなぐ アップサイクルの 取り組み



習志野病院は職員から寄せられた着物17枚と病院で
使用しなくなった浴衣27枚を寄付

〈岩手〉北上済生会病院／
〈千葉〉習志野病院

昨年度に済生会フェアを初開
催して以降、〈岩手〉北上済生会
病院は就労継続支援B型事業所
とさまざまな取り組みを進めて
います。その中で「幸呼来J a
pan」が着物や浴衣の生地を
募集していることを知り、済生
会広報ブランドイングプロジェ
クトのメンバーに共有し、協力
を呼びかけました。

同団体は、盛岡さん踊りの
浴衣や寄付された着物を東北の
伝統工芸「裂き織」でアップサ
イクルし、ポーチやコースター
などに再生させています。

この活動に共感した〈千葉〉
習志野病院では、院長はじめ管
理者たちも後押しし、寄付に協
力。職員からは「亡くなった母
の着物を生かすことができるの
はうれしい」といった声が寄せ
られました。

寄付された生地のアップサイ
クル品は、北上済生会病院で
11月16日開催の「済生会フェア
2025」で販売されます。

（岩手・北上済生会病院）
済生記者 掛川千恵子
千葉・習志野病院
済生記者 大迫康子

受刑者がボランティア活動 グループホームで散髪

グループホームあさくらでは、
2カ月に一度、利用者さんの散
髪をボランティアで行なっ
ています。昨年度は延べ6人が
利用しました。

5月30日、山口刑務所で理容
の国家資格を取得した受刑中の
Aさん（50代）がボランティア
として参加。女性の髪を切るの
は初めてというAさんは緊張し
ながらも、刑務官の見守る中、
作業専門官の指導を受けて利用
者さん2人の散髪を行ないまし
た。

Aさんは「緊張しましたが、
次はもっと上手になりたい」と
話していました。出所後に理容
の技術で社会とつながることが
できるよう、今後も活動の場を
提供していきます。

（山口地域ケアセンター）
総合企画課 広報係主任
西川愛子



ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1800の事業を展開します。



吹田病院主催の周産期ケアセミナーには行政機関も参加。地域の母子支援には行政、医療
機関、クリニックなどの連携が欠かせない

地域の関係機関が連携し サポート体制を構築

妊婦と接する現場の思いから
始まったキラキラWAYですが、
助産師のマンパワー不足といっ
たさまざまな課題も。地域のす
べての妊婦に対象を広げ、支援
を継続していくためには、行政
をはじめ地域内の関係機関が一
体となって取り組んでいく必要
があります。



「助産師として、妊婦さんに対して
無理に聞き出したり、問い詰めたり
せず、ゆっくり信頼関係を築いてい
くことを心がけています」（看護主
任・島津友美さん）

そこで、吹田病院が声かけ役
になり、年2回「周産期ケアセ
ミナー」を開催。

援が必要な母子を、誰一人取り
残さない。地域のサポート体制
構築の一助となっています。



小児科科長・小川哲さんは虐待防止
の取り組みにも尽力。「他人の子育
てに無関心にならず、いろいろな人
が関わっていくことが大事」と語る

吹田市では、妊娠中を含めた
子育て支援として、市の母子
保健課・発達支援センター・社
会福祉協議会・医療機関などの
連携体制を整え、相談を聞いて
います。

本記事は済生会が運営するウェブサ
イト「ソーシャルインクルージョン
を考えるWebメディア（シンク!）」
で公開中の吹田病院の取材記事を
再編集したものです。同ウェブサ
イトの記事もぜひご覧ください。



知る・見つける・支える

ソーシャルインクルージョン

Social Inclusion シンク!

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>



更生保護施設入所者対象の無料健診 受診者の健康意識高まる

6月3日、今年度1回目の更生保護施設入所者無料健診事業を実施しました。

今回もウェブ問診システムを活用し、事前に健康状態や既往歴などをウェブ上で記入してもらったことで、受診時の負担軽減やスムーズな進行につながりました。

健診当日は男女5人ずつ計10人が受診。身長・体重・血圧測定、血液検査、尿検査、胸部X線検査、内科医の診察を行ない、生活習慣病の早期発見や健康維持に向けた助言を行いました。

受診者からは「待ち時間が少



なくて良かった」「親切にしてくれてうれしかった」などの声が出た。また、「健康のために運動を始めたい」といった前向きな感想もあり、健診をきっかけに健康意識が高まっていることも感じられました。

(地域連携課 秋山綾香)



外国人が安心して暮らせる環境づくりを 多職種連携でニーズに合った支援

6月8日、群馬県・太田公民館東別館でNPO法人北関東医療相談会主催の「第70回医療相談会」が開催され、協力機関として〈群馬〉前橋病院、〈東京〉中央病院、当院と宇都宮乳児院が参加し、MSWが支援にあたりました。

この取り組みは、関東ブロックMSWの共同事業の一環で「外国人のための医療相談会」として実施され、関東エリア在住の外国籍住民33人が来場しました。

当日は無料健診に加え、弁護士による法律相談、さらには生活全般に関する相談にも対応

W)は「地域の外国人住民が安心して暮らせる環境を整えるための取り組みとして、今後も地域との連携を深めながら継続していく予定です」と語っています。(地域連携課 秋山綾香)

〈栃木〉宇都宮病院

古着回収で障害者就労支援 ウエス作りが工賃向上につながる

山形済生病院

当院では、なでしこプランの障害者就労支援の一環として古着回収を実施中です。5月19日に院内3カ所に回収ボックスを設置して活動を開始し、1カ月間で970キロの古着が集まりました。

集められた古着は、国外で販売されるものとウエス(工業用



雑巾)に加工されるものに分別します。

ウエス作りは、全国の就労支援施設で働く障害者の方々の毎日の作業にもなり、工賃向上へとつながっていきます。

この活動は、繊維リサイクルを利用して済生会のソーシャルインクルージョンの取り組みやSDGsにもつながります。今年度は年間を通して実施予定で、



おそろいのエプロン姿で、管理栄養士から学びながら調理に取り組む子どもたち

地域の居場所づくりに食育で支援 子どもたちの「最高の笑顔」のために

〈三重〉明和病院



自宅でおうちの方と話ができるように、パンケーキのレシピを配布



今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。

(済生記者 柏倉汐里)

NPO法人「みんなの食堂」が主催する「わいわい」では毎週水曜日、地域の公民館を借りて「水曜開放デー」を実施し、学校帰りの子どもたちにおにぎりやおやつを提供しています。

当院も支援を模索して同法人と話し合いを重ね、このほど「キッズクッキング食育事業」が立ち上がり、養士を中心としたチームが水曜開放デーのおやつ作りを通して、継続的に子どもたちへ食育を実施します。

5月7日は15人の子どもたちが参加。ニンジンとコーンの2種類のパンケーキを作り、管理栄養士が「魔法をかけるから見ていてね」と生クリームにレモン汁を入れると、みるみるうちにホイップに変化し、「すごい」と驚く子どもたち。上手に出来上がったパンケーキは皆でおいしく食べました。

(医療社会事業課主任 小敷真由美)



り始める10月、すっかり元気になった二人に退院の日が訪れた。前夜、院長から退院を告げられると「いやだいやだ」と泣いたが、看護婦になだめられてようやく納得した。

翌朝早起きした二人は、他の

入院患者に別れの挨拶をして回った。さまざまな贈り物を受け取り、二人の荷物袋はいっぱいになった。慶治君は和歌山市のA園に、信子さんは南海市のB寮に入所する。

二人は最後の食事を済ませ、入所先の園長さんと保母さんに手を引かれて門を出て行った。病棟の職員全員が送り出した。二人は「サヨウナラ」「サヨウナラ」を繰り返しつつ野道に出たが、その顔には涙を流していた。

見送る人も熱いものがこみ上げて来る。若い看護婦の目には光るものが宿った。大道路の曲がり角で二人は立ち止まった。慶治君はだれから頂いた絵タコをさしあげて「サヨナラ」と大きく叫んだ。門の前では皆が目を見張り看護婦のハンカチが動いている。急に婦長が走り出して二人の手を左右に固く握った。それはちようど母が、いとし子を遠い旅路に立たせるときのような光景であった。

☆ ☆

社会的養護を必要としている子どもたちを済生会の乳児



【現在の有田病院の日常】①今も昔も患者さんに寄り添い、心温まるケアを提供する ②質問に対して分かりやすく資料を使いながら説明を進める職員 ③毎年健康フェスタを開催。子ども向けの救命訓練を通して救命救急の大切さを伝える ④地域とのつながりも大切に、塗り絵を囲んで子どもたちと交流

院や児童養護施設の職員は守り育てています。他にも病院や保育所、障害児入所施設など、済生会は地域と一緒にあって、命のバトンをつないでいます。

慶治君と信子さん、ご健在であればそれぞれ85歳と88歳。今

頃はどこで暮らしているのでしょうか。

「済生」アーカイブ作業中にこの記事が目に入り、目頭が熱くなりました。バックナンバーは「なでしこクラウド」に順次掲載しています。



機関誌「済生」が 創刊100年！

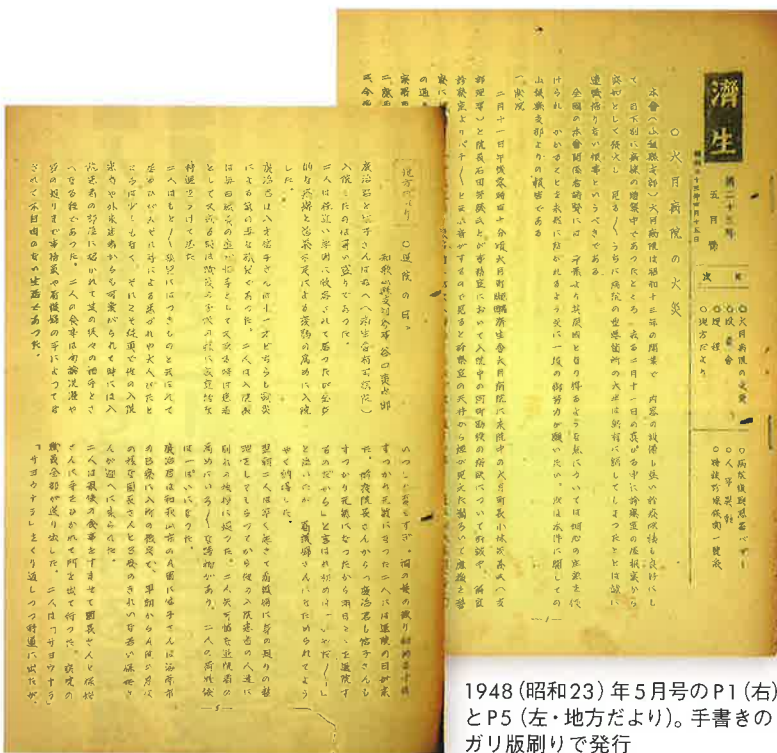


1924（大正13）年6月創刊の「済生」が発行100年を迎えました。「済生」のあゆみを紹介します。

80年前の終戦後、存続の危機に直面していた済生会ですが、施薬救療の使命を全うすべく職員は立ち上がりました。戦時下に休刊していた「済生」も1946年12月に復刊しますが、時には手書きでガリ版刷りになることも。戦後の苦境が窺えます。

そんな中で1948（昭和23）年5月号に掲載された〈和歌山〉有田病院の物語をお伝えします。

（株）白橋 西林芙美・本部広報課 河内淳史



1948（昭和23）年5月号のP1（右）とP5（左・地方だより）。手書きのガリ版刷りで発行

終戦後の「済生」 和歌山・有田病院から届いた病院だより

地方だより「退院の日」

和歌山県支部参事 谷口寅太郎

記事は「慶治君と信子さん」が済生会有田病院に入院したのは暑い盛りであった」と突然始まります。続きは以下のとおりです。

☆ ☆

二人は近所の学園に収容されていたが、全身的な疥癬（かいせん）と栄養不足による衰弱のため有田病院に入院した。

慶治君8歳、信子さん11歳。どちらも戦災で親を亡くしていた。二人は毎日職員の遊び相手

として、ある時は患者として、またある時は職員の子どものように家庭的な環境で過ごしていた。困難な境遇にもかかわらず純真な二人は他の入院患者や外来患者からも可愛がられた。食事や洗濯、身の回りまで事務員や看護婦が世話をした。

いつしか夏も過ぎ桐の葉の散



現在の有田病院（左）と1949（昭和24）年当時の有田病院（右・病院HPより）

芝居も、歌も、バラエティーも、マルチにこなすウエンツ瑛士さん。

演劇の本場・イギリス留学を経て、

舞台にも力を注いでいます。

戦後80年を迎える今夏は、

戦後まもなく米兵と結婚し、

激動の時代を生きた

日本人女性の半生を描く作品に出演。

真実の愛を貫くアメリカ人の夫を、

ウエンツさんはどう演じるのでしょうか？

ウエンツ瑛士

Eiji Wentz



Vol.182

SAISEI | 2025 JULY 22



うえんつ・えいじ 1985年生まれ、東京都出身。4歳からモデルとして芸能活動を始め、雑誌、CMのほか、NHK教育テレビ「天才てれびくん」にレギュラー出演。9歳のときに劇団四季のミュージカル『美女と野獣』で俳優デビュー。以降、俳優活動のみならず、情報番組やバラエティ番組などでマルチに活躍。2018年から約1年半のイギリス留学を経て、帰国後も多方面で活動している。近年の主な舞台に『ショウ・マスト・ゴー・オン』(22)、『オーランド』(24) などがある。

ことができた。その歴史の重みを噛みしめながら、稽古を通じて「戦争花嫁」という言葉の意味を自分なりに理解していきたい」と語る。

舞台の醍醐味は、良くも悪くも人としての「生きざま」が見えるところ。「稽古も含めて、相手の役者さんから、まるで写し鏡のように自分の生き方を突きつけられる瞬間があるんですが……そんな怖さも魅力です。僕も今年40歳。40代にな

ったらもっと落ち着いてとか、これまでの経験を生かしてという考えはまったく

なく(笑)、むしろデビューの時

と同じ気持ちで、スタートダッシュ

の年にしたいですね!」

“戦争花嫁”を ピュアな愛で支えた夫役。 ストレートな感情を舞台上で解き放つ!

Text: みやじまなおみ

Photos: 大村祐里子

Hair & Make-up: 松永香織

Styling: 上野真紀

「僕が演じるフランクは、亡くなる直前まで日本人だった妻への愛を貫き、甘えん坊で、寂しがり屋な方だったと聞いています。感情表現がストレートなのはアメリカ人ならではかもしれませんが、僕もかなり近い感覚を持っているので、舞台上で妻・桂子役の奈緒さんに心の内をさらけ出し、お互いのパワーを

ぶつけ合いたい。そこがまた、本作の見どころの一つになると思っています」
ウエンツさんも「両親(アメリカ人の父・日本人の母)が国際結婚し、幼少期から文化の違いを体験してきた一人。戦後の混乱期に真実の愛を求めて海を渡った方たちがいたおかげで両国の関係ができ、僕も生まれる



舞台『WAR BRIDE —アメリカと日本の架け橋 桂子・フランク—』

実在する女性、桂子・フランク、現在94歳。戦後まもない1951年、20歳のときに米軍兵士フランク・フランクと結婚して海を渡り、『戦争花嫁』と呼ばれた。アメリカ兵と歩いているだけで娼婦と言われた時代に、なぜ桂子は敵国軍人と結婚したのか? アメリカでも人種差別を受け、それでも「私は日本を誇りにできる、そしてアメリカが誇ってくれる女性になりたい」と、日本文化を広めることに尽力した彼女の半生を描く。

■脚本: 古川健 ■演出: 日澤雄介

■出演: 奈緒、ウエンツ瑛士、高野洸、占部房子、山口馬木也 ほか

《東京公演》8月5日(火)~27日(水) よみうり大手町ホール

《兵庫公演》9月6日(土)・7日(日) 兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

《福岡公演》9月13日(土)・14日(日) 久留米シティプラザ ザ・グランドホール

公式サイト: <http://www.warbride-stage.com>

口福につぽん

吉井省一



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よいし・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

8月上旬の3日間、山形の街は「花笠まつり」で盛り上がります。私も少年時代を過ごした思い出ある街なので、「花の山形紅葉の天童」の歌と「ヤッシヨ、マカシヨ」のかけ声を聴くと、今でも胸が騒ぎます。

この山形市の南に位置する置賜地方は、明治期にイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが「東洋の理想郷」と称したほど、豊かな土地と人情の厚さが自慢。美味しい農作物の産地としても広く知られています。

山形育ちの野菜たちが
美味なドレッシングに

「素材の持ち味を大切に」がコ



素材の持ち味を大切にしている「たかはたファーム」には、ジャムやゼリー、デザートなど美味しいスイーツもいっぱい

コンセプトの「たかはたファーム」が作った「YAMAGATAドレッシング」は、商品名にあるように山形県産の素材にこだわった調味料。今回ご紹介するセットの「和風山形セルリー」「ほうれん草のグリーンシーザー」「マッシュルームと深炒り玄米粉」「さわやかトマト」「辛味噌とネギ」の5種類に、去年からは「うごぎと味噌」も仲間に加わりました。

YAMAGATAドレッシング

吟味し、丁寧に手間ひまかけて作っています」と語るのは、社長 福島真吉さん。

その言葉を裏付けるように、「和風山形セルリー」は日本野菜ソムリエ協会主催のドレッシング選手権で入賞。「マッシュルームと深炒り玄米粉」は山形のうまいものファインフードコンテストで山形県農林水産部長賞（おいしい山形賞）を受賞するほどの実力派なのです。

今回は、実際に料理に使いながら、それぞれのドレッシングならではの豊かな味わいをご紹介します。



緑豊かな山々に囲まれた扇状地に広がる「まほろばの里」高畠町

自然な甘みや旨みで 料理の味が引き立つ

まずは「和風山形セルリー」をタコと野菜のマリネで。実は私はセロリが大の苦手、恐る恐るひと口。おや、あのセロリの青臭さがありません。好みのイタリアンテイストな味で、あっという間に完食。

次に「ほうれん草のグリーンシーザー」をグリーンサラダで。



地元山形県産の素材を生かした製造工程は、手仕事と機械作業を適材適所に使い分けながら行なわれている

YAMAGATAドレッシング
とおすすめの料理



辛味噌とネギ
[豚しゃぶ]

和風山形セルリー
[鯖のマリネ]

ほうれん草のグリーンシーザー
[ボイル海老のグリーンサラダ]

さわやかトマト
[冷製パスタ]

マッシュルームと深炒り玄米粉
[牛肉の水炊き]

クリームチーズとパルメザンチーズの豊かなコクがほうれん草の旨みとベストマッチ。クリーミーな口当たりで、淡泊な白身魚にも合いそうです。

「マッシュルームと深炒り玄米粉」は近郊の農家こだわりの深炒り玄米粉と胡麻の風味が実に香ばしい。しめじとブロッコリーの和え物にかけると、その味わい深さがさらに際立ちます。

「さわやかトマト」はシーフードの冷製パスタに。トマトのフレッシュな爽やかさがレモンの香りと相まって、いつものパスタが確実にランクアップします。

「辛味噌とネギ」は特製辛味噌がポイント。にんにくや唐辛子がかいていてかなりの辛さです。冷や奴にかければ、お酒のおつまみとして喜ばれること間違いなし。

どれも素材の旨みを最大限に生かすことで、主役の料理を美しく盛り立てる名バイプレイヤー。



YAMAGATAドレッシング
[122ml×5瓶（和風山形セルリー、ほうれん草のグリーンシーザー、マッシュルームと深炒り玄米粉、さわやかトマト、辛味噌とネギ）]
2,700円（税込・送料別） 賞味期限……製造日より10カ月

お取り寄せ・お問い合わせは

たかはたファーム

〒992-0324 山形県東置賜郡高畠町大字入生田 100

TEL：0238-57-4401

ホームページ：https://shop.takahata-farm.co.jp



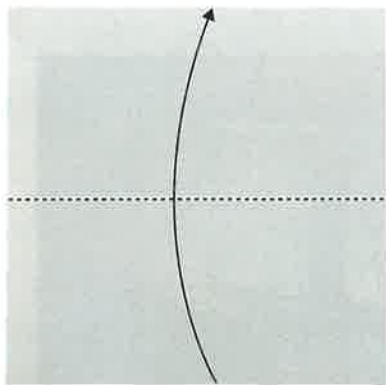
子どもたちに大人気！ たのしい！ さかなつり

作品 いまいみさ

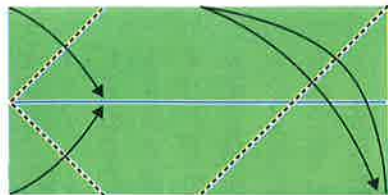


さかな

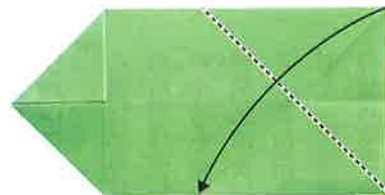
1 半分に折る



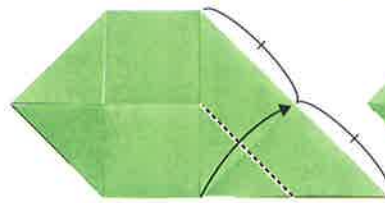
2 図のように折り目をつけて折り、
右は折り戻す



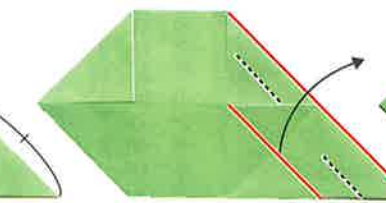
3 点線で折る



4 図のように
点線で折る



5 赤い線を合わせる
ように折る



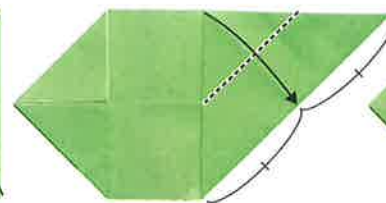
6 ⑦になるようにひらく



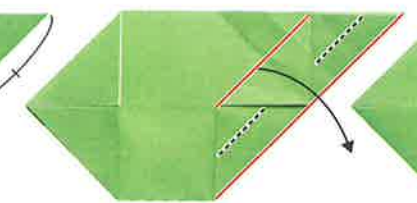
7 点線のように折る



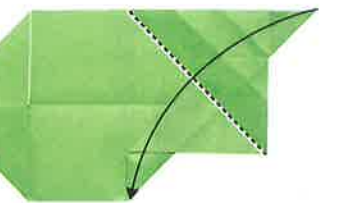
8 図のように点線で折る



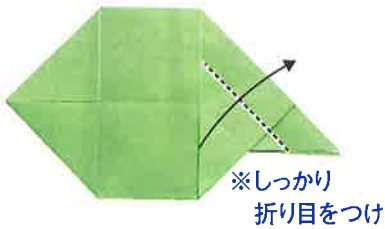
9 赤い線を合わせるよう
に折る



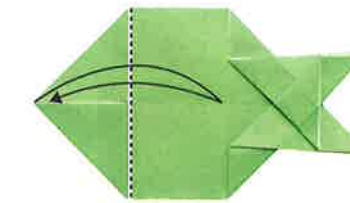
10 角を合わせて折る



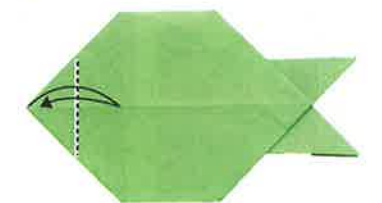
11 図のように折り目で
折る



12 点線で折り目をつけて
もどし、裏返す



13 折り目まで折ってもどす



14 さらに折り目まで折る



15 輪ゴムが引っかかるように
折り目を立ち上げる



16 丸シールで目やうろこを
はってできあがり



つりざお

ストローの先に
毛糸をテープで
とめる。毛糸の先
に輪ゴムを結ぶ



さかなつりゲームで
たのしんでね♡

【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える！決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図：いまいみさ おりがみ協力：株式会社トーヨー



〈岡山〉吉備病院で「ふれあい看護体験」を開催。多職種のスタッフが一堂に会し、未来の医療従事者を温かく迎えました。詳細はP41をご覧ください。

topics

二つのSでハート形♡ さいせい生みの親が表彰

〈東京〉中央病院

6月10日、
済生会広報委
員会による済
生会マスコッ
トキャラクター
「さいせい」の
表彰式が行
なわれました。
マスコット
キャラクター
「さいせい」
の生みの親で
ある当院消化
器外科担当部
長・島海史樹医師が出席し、炭
谷茂理理事長から表彰状が授与さ



左から炭谷理事長、島海医師、伊藤秀一広報委員会委員長

れました。島海医師は「済生会
のソーシャルインクルージョン
という価値観が、より広く深く
浸透する一助となれば大変うれ
しく思います」とコメントしま
した。

さいせいは「SAISEI」と
「SOCIAL INCLU
SION」の二つのSを組み合
わせたハート形の顔が特徴。お
せっかいで困っている人を放つ
ておけない性格で、ソーシャル
インクルージョンの精神を体现
しています。済生会のマスコッ
トとして今後の活躍が楽しみです。
(広報室 鈴木香純)

★済生会の病院や福祉施設のキ
ャクターとコラボした記事を
お待ちしております。

(本部広報課長 河内淳史)

〈山口〉湯田温泉病院 ADL向上支援のため リハビリ職員を派遣

湯田温泉病院は今年6月から
山口刑務所にリハビリスタッフ
の派遣を開始しました。高齢
や病氣によって日常生活動作
(ADL)が低下した受刑者に
対し、理学療法士が身体機能の
維持・改善を目的としたリハビ

リテーションを提供しています。
6月12日、同刑務所の医務課
長・平野恵美子氏からの診療情
報提供に基づき、2人の受刑
者に対する支援を行ないまし
た。右手の震えが徐々に悪化し
ているAさん(70代)と、軽
い作業でも息切れがあるBさ

ん(90代)に対し、当院のリハ
ビリテーション科・濱元靖二郎
科長が個別に話を聞き、体の動
きを確認しながら、体操や呼吸
法の指導を実施しました。
(山口地域ケアセンター
総合企画課 広報係主任
西川愛子)



いないのは、当院だけだったこ
ともあり、病院名を変更するこ
とになりました。「横浜」を冠
したことで、周囲の医療機関の
方からは「横浜市立の病院にな
った?」という反応もありまし
たが、そこは地域連携室から丁
寧に説明させていただきました。
今後も当院の周知・広報に努
めていきます。
(済生記者 長澤伸哉)

〈福岡〉二日市病院

AI技術を活用し 医療現場の負担軽減へ

当院は、株式会社オプティ
ムが提供する病院向けオンプ
レミス生成AI搭載サービス
「OPTIM AI ホスピタル」
を導入。昨年12月からのテスト
運用を経て、5月15日に正式稼
働を開始しました。



これまで当院では、看護サマ
リーや診療情報提供書の作成に
多くの時間が割かれ、医師や看
護師が本来の診療・ケア業務に
専念できないことが課題となっ
ていました。
「OPTIM AI ホスピタ
ル」を導入した結果、当院では
12日以上入院患者の退院時看
護サマリー作成において、そ
の84%を同サービスが支援し、
関連業務コストを36%削減す
ることに成功しました。こう
した文書作成業務の効率化によ
り、看護師の作業時間が大幅に
短縮され、より質の高い患者ケ
アに時間を充てることが可能に
なりました。
(経営戦略課主任 久富大史)



〈神奈川〉横浜若草病院

病院名が変更し 「横浜」が付きまし

4月から当院の名称を「済生
会横浜若草病院」に変更しまし
た。従来は、済生会の後援団体
「若草会」にちなみ、「済生会若
草病院」でした。昭和2年設立



の若草会は済生会を後援するた
めの婦人団体で、初代会長は当
時の神奈川県知事夫人が務めま
した。

歴史と由緒ある名称の若草病
院でしたが、全国規模で求人活
動をすると、所在地がピンと来
ない方も。また、全国の済生会
で地名が病院の名称に含まれて

〔福岡〕八幡総合病院
総裁・秋篠宮皇嗣殿下
ご訪問

総裁・秋篠宮皇嗣殿下が5月8日、昨年12月に北九州市八幡東区から八幡西区へ新築移転した当院を訪問されました。殿下は当院の古森公浩院長や北村昌之名誉院長らが出迎える中、12時10分にご到着。古森



院長から当院の概要や特徴について説明を受けられ、院内を視察されました。ご視察の際、患者さんだけではなく、職員に対しても直接励ましのお言葉をかけていただき、大変ありがたく、貴重な経験となりました。今後とも地域に信頼される病院を目指して職員一同がんばっていくことをあらためて自覚するいい機会になりました。
(済生記者 川崎浩司)

〔岡山〕瀬戸内海巡回診療事業
推進事務所

済生丸の航海を支える
クラファン実施中

1月20日から3月10日にかけて募集した「済生丸お絵かきコンテスト」では、たくさん



の心温まる作品が寄せられました。3月21日に30作品の中から優秀作品を決定し、選ばれた作品は済生丸の船内に飾られています。
応募者全員に



済生丸の見学券を送り、見学に来られた方からは「本当に海の病院だね!」「貴重な存在ですね!」といった声が。皆さん目を輝かせている姿が印象的でした。

現在、済生丸のさらなる航海を支えるためクラウドファンディングに挑戦しています。終了は8月末。離島の人々が安心して暮らせる医療環境を守るため、そして「海の病院」としての役割をこれからも果たし続けるために、皆さんの温かいご支援をお願いいたします。詳細は済生丸のホームページをご覧ください。

(事務員 原田佳子)

済生丸のホームページはこちら



自作のかぶとを被って はい、チーズ!

〔兵庫〕ふじの里デイサービスセンター

こどもの日の5月5日、利用者さん21人がかぶとを折りました。10時の朝の会で利用者さんにとこの日の思い出を聞いたところ、「かぶとを折って被った」という話になり、早速、皆で折ってみることに。せっかくなので被れるように新聞紙で作りました。男性利用者さんの一人が率先して折り方を説明し、一人一個ずつかぶとが完成しました。

記念写真を撮影したら皆さんいい笑顔です。お恥ずかしながら筆者は新聞紙を正方形にする方法が分からず利用者さんに教えてもらいました。

利用者さんからは「何十年ぶりで楽しかった」という声が聞かれました。中には「家に帰って帰っていいか」という人も。持ち帰ったかぶとは玄関に飾っているそうです。

(通所介護課長 山下芳樹)

〔富山〕幼保連携型認定こども園でしこ保育園

夏野菜の栽培に挑戦!

5月12日、夏野菜の栽培に挑戦するため当園の年長児25人が苗植えと種まきをしました。「得意ではない野菜も食べられるようになりたい」「作った野菜を年下のお友だち(園児)や先生にも食べてほしい」との思いで、今回育てる野菜をピーマン、オクラ、ナス、はつか大根に決めました。

初めて見る野菜の苗や種に、子どもたちは興味津々。「野菜のお口は土の中にあるから、葉っぱではなく土にくさんお水をあげるんだよ」という副園長の話から、「おおきくなーれ、おいしくなーれ」と声をかけながら水やりも行ないました。

夏の収穫までの期間、毎日当番が世話をし、たっぷりの愛情を込めて育てています。今から収穫が待ち遠しいです。

(済生記者 宮本亜実)



〔大阪〕中津病院

管理栄養士が腸活と栄養を解説

5月21日、グランフロント大阪4階 Open MUJI でイベントを開催し、23人が参加しました。

3回目となる今回は「腸活と栄養―始めよう健腸生活！―」と題して、阿部和徳栄養部長が管理栄養士の仕事内容を、宮浦真梨子管理栄養士が腸活の実践方法などについて解説しました。



「食事バランスチェック」では、参加者が食品サンプルから1食分の食事を選び、SAT システムで食事バランスを判定。結果をもとに管理栄養士が改善点をアドバイスしました。「試食・腸の音を聞いてみよう」では、無印良品の食品から3品を試食し、聴診器を使って自分のおなかの音を聴く体験をしました。

参加者からは「管理栄養士さんに直接相談できる機会はないから勉強になった」などうれしい感想をいただきました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〔大阪〕泉尾病院

公式YouTubeで病院PVを公開中

当院の公式YouTubeチャンネルを開設し、第一弾として4月21日に病院紹介のPR動画を公開しました。地域に根差した医療・福祉の取り組みをはじめ、働く職員の表情やチームの雰囲気、そして患者さんに寄り添う日々の様子をコンパクトにまとめて紹介しています。

公式チャンネルでは当院で働く人の魅力を伝え、患者さんに



は信頼を、医療職に就きたい人には「自分がここで働く未来」をイメージしてもらえような発信を目指しています。今後は、院内の活動紹介、医師インタビュー、職員の声など、少しずつコンテンツを充実させていく予定です。

グループの一員としてお互いの取り組みを知るきっかけになればうれしく思います。ぜひご覧いただき、ご意見などもお寄せください。チャンネル登録も

プロフェッショナルの流儀を学ぶ実技研修

5月15日、院内パレスホールで新人看護職員を対象に採血・注射の実技研修を行いました。新人看護師8人に加え、今年度から新人臨床検査技師2人も



一緒に参加。基礎的な講義を受けた後、実際に互いの腕に駆血帯を巻いて採血ができそうな血管を探してみました。そして、採血・注射シミュレーター（採



血静注練習キット「センチティブ」で、本物の注射器と針を使って採血を体験しました。

模擬血管とはいえ針を持つ手が震えてしまい、先輩に手を添えてもらう場面も。参加した新人看護師は「患者さんに実施するイメージができました」と意気込みを語っていました。また、新人臨床検査技師は「看護師さんが苦労して採取した検体を慎重に扱おうと思いました」と看護師の苦労や緊張を知る機会になりました。

（副看護部長 椿 真己）

鼠径ヘルニア修復術1000症例を達成！

〔大阪〕吹田病院

5月27日に腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP法）の件数が1000件に到達しました。当院は2020年4月にヘルニアセンターを設立し、鼠径部ヘルニアをはじめとしたヘルニアの診療を行なってきました。

植野望科長は医療機関からのコンスタントな紹介に感謝を述べるとともに、医療チーム全員の協力の賜物であることを強調

多彩な催しで新しい仲間を迎え入れ

〔埼玉〕鴻巣病院

「事務作業の定型化事例を多く作り、医師事務作業補助者が医師の診療業務の効率化を図るべく、積極的に関与したことが今回の結果につながった」と話しています。

（済生記者 橋本 茜）

さらに「既往症のある患者さんの全身状態を確認できることは病院診療の強みで、吹田病院にヘルニアセンターあり」と自負しています。これからも患者さんのために最善を尽くしていきます」と締めくくりました。

令和7年度の入職式を4月1日に行ないました。続いて、1日から3日間にわたり、新入職員9人と令和6年度中途入職者10人を対象にオリエンテーションを実施しました。



新入職員にとって有意義な時間となりました。

4月24日には、職員の互助会である「鴻巣済友会」主催の総会と新入職員歓迎会が開催されました。昨年度より参加者が増え、会員の約3分の1にあたる約120人が参加する盛会となりました。

（済生記者 田島利恵子）



短時間。4月は社会人としてのマナー研修を実施し、5月以降は疾患別リハビリテーションに関する座学や触診、運動療法などについて、各分野の認定理学療法士や資格保持者が指導にあたっています。

今年度から教育の進捗状況を「見える化」するための進捗管理シートを導入し、チーム内で共有できるように。これによ

6月7日、多田記念大野有終会館「結とぴあ」で開催された大野市福祉ふれあいまつりに、当園利用者さんの作品約20点を展示しました。日々のレクリエーションや創作活動の中で一つ

温もりとやさしさあふれる作品20点を展示

〔福井〕特養聖和園

り、修了済み・未修了の項目が明確になり、チーム全体での効率的な指導が可能となっています。また、新人スタッフも目標が明確になることで、より意欲的に研修に取り組むことができます。

（リハビリテーション部 科長 稲吉直哉）



ひとつ丁寧に作り上げられた貼り絵や折り紙作品、色とりどりの装飾が、来場した多くの人の目を引き、会場にあたたかさをもたらしていました。

当園のほかにも市内福祉施設12団体が参加する中、展示を通じて、普段の園での暮らしや一人ひとりの感性が自然と伝わるような、静かな交流の時間が流れていました。

「すべての人々が、笑顔で、心豊かに、温もりでつながる」という催しの目的にふさわしく、言葉がなくなとも思いが伝わる、



そんなやさしさが作品にあふれていました。

〔済生記者 野尻 宗〕



ローテーション研修で配属後のイメージを

奈良病院

当院では看護部長の提案により、新人看護師のローテーション研修を試みました。期間は4月4～30日の約1カ月間。目的は、看護専門職として職場イメージを獲得し、働く自分の姿を思い描き、配属後のリアリティショックを緩和することでした。

新人看護師6人にとっては看護師としての第一歩を踏み出す大切な時期。個々に合った配属先を決定するのは難しい選択です。そこで、八つの部署で研修をした上で部署を決定することになりました。



人看護師から「自分が病棟で働くイメージができた」、受け入れ部署からは「配属後も研修で関わった看護師がいると安心感につながると思う」との意見がありました。

現在、新人看護師たちは5月1日に決定した部署で指導を受けながら頑張っています。

〔看護副部長 古川 優子〕

病院運営に関する説明会を開催

5月9日、病院運営に関する説明会が開催され、役職者約40人が参加しました。同内容の説明会は4月23日に常勤医師対象にも行なわれました。

佐々木祐一郎病院長からは、外来・入院患者数や稼働額、手術件数、他院からの紹介状況などの推移説明が行なわれ、その中で、令和6年度の救急車搬入患者数が過去最多を記録、境港消防からの救急車応需率も86.0%と、市民や消防から高評価を受けたとの報告もありまし



また、コンプライアンスの重要性や報告・連絡・相談の徹底、ハラスメントのない職場づくりなど、職務についての注意点をほか、今後の展望や新病院建築の進捗状況など、話題は多岐にわたりました。

〔済生記者 亀尾 美子〕

新体制で新入職員を教育

今年度、新入職員4人を迎えた当院リハビリテーション部では、教育システムを一新し、年間を通じて職員が着実に成長できる体制を整備しました。

研修は毎週2回、30分程度の



〈長野〉 佐久市特養シルバーランドみつ

鈴太鼓の演奏と
懐かしいハーモニカの音色

5月20日、普段地元公民館で



活動している「荒家姫だっこ」グループが当施設を訪れ、鈴太鼓とハーモニカの演奏会を実施しました。

長さ30センチほどの筒に鈴を取り付けた鈴太鼓に似た形の鈴

太鼓で「まりと殿様」や「あ人生涙あり」などの曲を演奏し、アンコールでは「青春時代」を奏でました。

演奏の合間に、メンバーの佐藤新一さんがハーモニカの演奏を披露し、「茶摘み」や「ふるさと」などを参加者と一緒に口ずさみましました。また、利用者の皆さんも鈴太鼓の演奏を楽しむ場面や、演奏者と会話を楽しむ利用者さ



んも見られ、「にぎやかで、衣装もきれいだった」という感想が寄せられました。

（済生記者 山浦裕子）

〈神奈川〉 横浜金沢若草園

新たな取り組み
パンの販売事業を説明

5月17日、当園で保護者会を開催し、18人の保護者が参加しました。

第1部では、藤本武園長が園の概況や今後の施策など、事業方針を話しました。その後、各担当者が今年度の事業計画や決算状況についてや、短期入所（ショートステイ）の休祭日など利用可能日の拡大、利用人数の拡大の報告を行いました。また、当園の利用者さんが横浜若草病院でパンを販売する事業の説明



と試食会も行ない、出来たてのパンを試食しながら、当園の新しい取り組みを紹介しました。

第2部では担当支援との懇談会、個別相談会を実施し、より利用者さんに寄り添った支援を目指して意見交換をしました。

（済生記者 日高 純）

〈大阪〉 障害者支援施設北村園

生演奏会で華やかに
29周年をお祝い

5月17日、毎年恒例の「開設記念祭」行事を行いました。当園は平成8年に開所し、今年で29周年を迎えます。

利用者さん・職員計60人皆で



看護師2人が
特定行為研修を修了

新潟県中央基幹病院

伊藤正勝

（入所部・生活支援員）
5月24日には開設記念ランチ会も実施。次の30周年記念に向けて、日々精進していきたいと思っています。

5月30日、林和宏看護師と石黒友美看護師の2人が、術中麻酔管理領域の特定行為研修を修了しました。今後は麻酔科医と連携しながら、患者さんに安全で安心な手術を提供するための麻酔管理をサポートしていくことが期待されます。

特定行為研修を修了した看護師は、看護の視点と医学的知識を融合し、質の高い手術医療と看護の提供に努めていきます。当院では今年度もさまざまな研修を実施し、より良い看護の実現を目指しています。

信頼される医療を提供し、患者さんが安心して手術を受けられるよう、人材育成開発部門は専門職としてのスキル向上やキャリア開発を支援しています。

（済生記者 渡邊真衣）

〈和歌山〉 有田病院

春の防火訓練 防災力や意識高める機会に

5月22日に春の防火訓練を開催し、職員20人が参加しました。防火訓練は消防計画に基づき、災害時に十分な対応ができるよ



うにすることを目的に、毎年春と秋の年2回実施しています。当日は地元消防組合の隊員9人が講師として来院。3部構成で、①煙体験、消火訓練、毛布を活用した応急担架の作成②スプリンクラー等の防火設備状況の確認③火災時の対応等のDVD視聴を行ないました。

煙体験では、煙が充満して周囲が見えなくなった状況の中で体勢を低くして煙を吸わないよう移動する方法など、実践しながらの訓練になりました。参加者からは「いつ起こるか分からない災害に対し意識を持つと同時に、対応できる知識や技術を教わる機会になりました」との感想がありました。(済生記者 大向伸正)

〈岡山〉 老健備中荘

児童合唱団の歌唱に 酔いしれる

5月10日、当荘の地域交流ホールで児童合唱団「みなんキッズコーラス」による慰問コンサートが開催されました。小学4～6年生の児童19人と当施設の利用者さん45人が参加しました。コンサートが始まると、利用者さんや職員も一同に、ピアノの生演奏に合わせた児童たちの情感豊かな歌唱に耳を傾けました。その美しくも力強い歌声に、利用者さん思わず手拍子したり、歌を口ずさんだりと楽しんでいました。児童たちの美しく澄んだ歌声が心に染みわたる中、中には思わず涙する人もいました。



今回のイベントはレクリエーションとして、利用者さんに楽しんでいただくことが目的です。今後も、利用者さんが心豊かに過ごせるような機会を提供していきます。(事務 柏野恵里)

実務者研修がつかないだうれしい報告

6月上旬、2018年に山口刑務所で実務者研修を受講した方から電話がありました。「医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の実技講習を受けたのは間違いないか」との確認でした。修了証明書を確認のうえ、修了して

山口地域ケアセンター
いることを伝えると、「間違いないですね。良かった」と明るい声が返ってきました。その方は2020年に出所。翌年から介護職に就き、現在は秋田県湯沢市で勤務しています。職場で医療的ケアを修了してい



令和7年度実務者研修開講式(山口刑務所内)

るのは彼だけとのこと。「たくさんさんのことを教えてもらい感謝しています。済生会がない秋田でも頑張ります」との言葉が印象的でした。

今年も6月11日から研修が始まり、全国の刑務所から選抜された8人が受講しています。研修を通じて人と社会をつなぐ支援を続けていきます。(総合企画課 広報係主任 西川愛子)

〈大阪 中津医療福祉センター〉 すべての人と共に生きる

6月7日、第40回中津医療福祉センター学会が中津病院大講堂で行なわれ、342人が参加しました。

今回のテーマは「ソーシャルインクルージョン すべての人と共に生きていく」。18題の一般演題発表とシンポジウムでは7演題の発表後、総合討議も行なわれました。

最優秀演題には、薬剤部・田中昭洋さんの「irAE対策 チームの取り組み」ICCIの投与・irAEの発現状況からみる傾向」が選ばれ、10月の開院記念日で表彰予定です。



また、良品計画の笹原侑祐さんによる事業や地域活動についての特別講演では、当院にとって今後の取り組みのヒントになる話もあり、貴重な時間を過ごすことができました。(済生記者 鈴木亜希乃)

兵庫県病院

院内が応援会場に！ 県内初の病院ビューイング

ヴィッセル神戸の協力により、5月25日にふじの里大ホールで「病院ビューイング」を開催、患者さんや職員家族など計57人が参加しました。院内でサッカー観戦をするこのイベントは、Jリーグの社会連携活動の一環として広がり、兵庫県で



参加者からは「サッカーを見たのは初めてだったが楽しかった」などの感想が寄せられ、スタッフからも「患者さんの笑顔が見られてうれしい」といった声が上がりました。(済生記者 吉井梨恵)

は今回が初開催。

試合前には、チームドクターで当院整形外科医の戸祭正喜医師による健康体操講座を実施。選手からのメッセージやマスコットキャラクターのモーヴィの登場で、会場は一段と盛り上がりしました。

topics

として温かく迎えてもらい、感謝しています」。タイさんからは「日本語に慣れるまで優しく教えてもらえるとありがたいです。山形には涼しい季節や美しい場所もたくさんあるので、休日に遊びに行くことも楽しみです」と前向きな言葉が聞かれました。職員全員でサポートし、楽しく仕事に励んでもらいたい



士国家試験受験を目指します。2人は長期入所に配属され勤務がスタート。スモンさんは「毎日新しいことを学びながら成長しています。ながまち荘の一員

（済生記者 高見友郁）



地域医療・福祉を支えた皆に感謝！

大分県済生会

筆者に、令和7年春の藍綬褒章受章の知らせが舞い込んできました。最初は喜びよりも驚きのほうが強く、調べてみると「藍綬褒章とは会社経営、各種団体での活動を通して産業の振興、社会福祉の増進等に優れた業績を挙げた方への褒章」と書かれていました。これを読んで、この受章は筆者個人ではなく、〈大分〉日田病院が開院から30年以上にわたる医療・社会福祉に真摯に取り組む、地域に尽くしてきた功績が認められた証しだと強く思いました。驚きは喜びに変わり、5月12日の受章式と拝謁には病院を代表する気持ちで臨みました。この栄誉を職員全員で分かち合い、これまでと変わらず地域医療、福祉事業に取り組んでいく糧にできればと思います。

（支部長 林田良三）

〈茨城〉神栖済生会病院 適切な栄養管理の実現を

6月12日、当院栄養科主催の講演会が開催されました。東京医科大学病院栄養管理科の宮澤靖科長が講演を行ない、医療関係者37人が参加しました。本講演会のテーマは「高齢者の『食』が医療を変える――栄養は最高の治療である――」。栄養管理が患者の治療効果を大いに上げる一方、食料費の高騰や人員不足などの課題により、適切な管理が困難な現状があります。このような課題を地域で共有し、情報交換やスキル向上を図ることを目的としました。講演後には意見交換会が行な



〈山形〉特養ながまち荘 ミヤンマーより、2人の介護人材を迎えました！

6月2日、ミヤンマーから特定技能の介護人材として、ナツスモン・ニエンさんとイーサン・タイさんを迎えました。今後実務経験を積み、介護福祉

（済生記者 江口裕紀）



〈岡山〉吉備病院 未来の看護師に向けたふれあい看護体験

5月17日、看護師、臨床工学技士、管理栄養士による「ふれあい看護体験」を開催しました。このイベントは、看護職を目指す高校生が医療の現場を体験し、看護職や関連職種への理解を深めることを目的としています。当日は18人の学生が来院し、採血



「でワクワクした」との声が寄せられました。また、生活リハビリの見学では「患者さんの生活を知る貴重な経験となった」との感想も。終了後のアンケートでは「職員の方が優しく接してくれて、改めて看護師を目指そうと思った」とのコメントがありました。

（済生記者 難波美紀）

〈山形〉特養愛日荘
地域の子どもと一緒に
ソレー！ ワッショイ！



毎年恒例の地域行事、東山形・妙見寺子ども神輿が5月3日に当施設の正面駐車場へとやって来ました。子どもと大人合わせて40人ほどで威勢よく「ワッショイ！ ワッショイ！！」と神輿を引っ張り練り歩いていました。

当施設では入居者さんと職員合わせて20人ほどが正面玄関前に集合し、元気に練り歩く子どもたちを見て終始笑顔。一緒に「ソレー！ ワッショイ！ ワッショイ！！」と子どもたちと声を合わせて大きな声で応援しました。合掌する人、手拍子をする人……皆それぞれが短い時間でしたが楽しんだようでした。

施設と地域のこうした交流の機会はとても重要です。今後も地域に開かれた施設として、

入居者さんと地域の人々との交流ができるように整備していきたいと思っています。

（済生記者 高橋 睦）

〈山形〉特養やまのべ荘
福祉の大切さを次世代へ



当荘では、毎年恒例となっている山辺中学校の職場体験活動「わっくWORKやまのべ」を受け入れ、中学生2人が5月13日から3日間の職場体験を行いました。

中学生たちは施設内の移動販売で入居者さんが品物を選ぶお手伝いをしたり、使い古したタオルを雑巾にリメイクしてみるなど、多岐にわたる業務を体験。

最初は施設に対して静かなイメージを持っていた生徒たちですが、明るく活気あふれる雰囲気と入居者さんや職員の親切な対応により、そのイメージは大きく変わったとのこと。

この活動は、次世代に老人ホームの実情と福祉の大切さを伝える重要な機会です。当荘としても、施設の活動を理解してもらう良いきっかけとなるこの体験活動を、来年も引き続き実施していきます。

（済生記者 岩田恭寛）



〈福岡〉大牟田病院
収入減への対策として
新たな料金体制導入

近年の人口減少に伴い、当健診センターの受診者は減少。さらに本年度から大牟田市「自治体人間ドック」が廃止され、年間数百万円規模の収入減と厳しい状況に直面しています。

難局打開のために営業活動を広げるなどしましたが減少した売上、受診者数をすべて補うには至っていません。

そこで料金改定に踏み切ることに。個別に丁寧な説明・交渉を重ねた結果、多くの事業所か

ら承諾を得ることができました。新たな料金体制は、令和8年度から運用開始する予定です。

こうした理解への感謝を込めて問診スペースを改善。パーティションを設置することでプライバシーに配慮しました。小さな改善ですが、少しずつ付加価値を加えていくことで受診者の満足度向上につながると信じています。

（健診センター課長 中村 博）

届けたい思いを一冊に 広報紙創刊

神奈川県病院

5月15日に広報紙「県病PLUS」（季刊誌）が創刊されました。今年1月から広報委員会を「講座」「HP」「広報紙」の3チームに再編。その一つである広報紙チームが構成、取材、撮影、編集を行いました。

誌名は職員からの公募によって決定。このPLUSには、当院が目指す医療のかたちを表す四つのキーワード「People（人々）、Local（地域）、Understanding（理解）」

〈富山〉幼保連携型認定
こども園でしこ保育園
読み聞かせで
絵本の世界に興味を！

4月22日、当園の年長児23人が富山市立図書館で開催された絵本の読み聞かせ、「おはなしワールド」に参加しました。翌23日は「子ども読書の日」で、今回のイベントは、子どもが積極的に読書活動を行なう意欲を高められるように、との思いで企画されました。

図書館では、ポップな色と形



の本棚にずらりと並ぶ絵本に目を輝かせていた園児たち。大型



本や紙芝居、パネルシアターなどを、司書さんに読み聞かせしてもらいました。また、絵本に出てくるかけ声やリズムに合わせて手をたたいたりして楽しみました。

これから、子どもたちが絵本に触れる機会をより一層増やし、絵本の面白さや楽しさを伝えていけるようにしたいと思います。

（済生記者 宮本亜美）

新潟病院

災害拠点病院として

6月2日、新潟・佐渡沖で発生した地震を想定して初動対応の災害訓練を実施、各部署から総勢100人以上の職員が参加しました。

各部署は院内放送やアクションカードをもとに行動し、災害対策本部では、被害状況確認や人員把握などの情報を集約、活動方針を決定しました。



また、昨年導入した安否確認システムを活用し、院内外の職員が自身の状況を回答、安否や登院可否を確認しながら人員把握も行ないました。今回は院内の災害対策マニュアルを大幅改訂したこともあり、手探

りでしたが、有意義な訓練となりました。

もしものとき、災害拠点病院として対応するために平時からの準備を進めます。

〔防災・災害対応委員会 風間伸介〕

〈栃木〉宇都宮病院

不要な学生服の寄付
子どもの学校生活を支援

当院では、子育て支援に取り組む「NPO法人栃木県子ども応援ないろ」と連携し、職員に向けて不要になった学生服の寄付を募っています。

今年度も約1カ月にわたり寄付を呼びかけた結果、市内の保



育園・幼稚園・小中学校の学生服や体操服、学校指定のカバンなど、多くの学用品が集まり、5月2日に同法人へお届けしました。

近年、学生服の価格が高騰し、負担を感じる家庭も。こうした状況の中、この取り組みは地域の子どもたちが安心して学校生活を送るための一助となっています。

稲見一美地域連携課長（MSW）は、「済生会の理念にも通じる活動であり、今後も継続して支援を行います」と話しており、引き続き寄付を呼びかけていきます。

〔地域連携課 秋山綾香〕

〈神奈川〉横浜若草病院

2型コラーゲン異常症を知っていますか？

5月18日、筆者は港南よこはまメディカルフェスティバル2025に一般参加し、2型コラーゲン異常症患者・家族の会のブースを訪れました。

この病気は、多くが2型コラーゲン（COL2A1）遺伝子変異により発症し、軟骨・目の硝子体・内耳などに症状が現



れる骨の病気の総称です。国内の患者数は約1500人。専門医が少なく、有効な治療法もまだありません。小児慢性特定疾病に含まれていますが、指定難病には認定されていませんが、18歳以上になると公的な補助を受けられず医療費の自己負担が大きくなります。支援もインフォーマルなものに頼ることになります。

筆者は不勉強で「2型コラーゲン異常症」を知りませんでした。本記事を通して「こんな状況

もある！」ということを知っていただければ幸いです。

〔済生記者 長澤伸哉〕

〈三重〉松阪総合病院

地域への感謝を込めて

この地で医療を行なうことができた感謝の気持ちと、新病院の建築を計画している中で、今後も地域とともに歩んでいきたいという観点から、済生会の創立記念日である5月30日、当院職員が病院周辺の清掃活動「ごみゼロ活動」を行ないました。

当日は病院周辺から松阪駅前新立体駐車場周辺とグループに分かれてごみを集めました。管



理職を含む医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学士・診療情報管理士・社会福祉士・公認心理士・メディカルアシスタント、総勢50人が協力して行ないました。

すべての人の「いのち」を分け隔てなく医療で救ってきた歴史が済生会の原点です。それぞれの地域で、誰もが地域の一員として共に暮らせるまちづくりを目指すための取り組みを行なっています。

〔済生記者 岩崎貴穂〕

〈茨城〉水戸済生会総合病院

イオン水戸内原で初開催
理学療法士監修
ウォーキング

5月27日、イオンモール水戸内原で「理学療法士が教える！イオンモールウォーキング」を初開催しました。

未来に向けた持続可能なまちづくり協定に基づく取り組みとして企画し、当日は地域住民13人が参加。当院の理学療法士2人による、ピラティスを取り入れた体の動かし方講座から始まり、その後は全員でモール内を



ウォーキングしました。参加者からは「呼吸の仕方と体の動きの連動が難しい」「動画サイトでは教えてくれない内容があつて驚いた」といった声も。終了後は半分以上の参加者が次回の参加申込をしていました。

〔済生記者 今野正俊〕



地域のケアマネージャー、
和病院の研修医・看護師・
MSWも参加し、合わせて20
人のスタッフの貴重な交流の場
にもなりました。

（済生記者 林 嘉夏）



安達医師は過活動膀胱の症状、
統計情報、最近の治療法までを
詳しく解説。成人の10%が罹患

5月25日、済生会小樽病院地
域共生健康セミナー第4弾「ト
イレが近い…間に合わない…
過活動膀胱のお話」を、ウイ
ングベイ小樽内「済生会ビレ
ジ」の済生会ウエルネスリハ
イサービス「ライヴリー」で開
催しました。講師は当院副診療
部長で泌尿器科医の安達秀樹医
師が務めました。

過活動膀胱解説セミナー 参加者の関心ありありと

（北海道）小樽病院



太鼓たたいて満面の笑み

〈愛媛〉小田特養緑風荘

当施設の3大
イベントの一つ、
新緑祭が5月24
日に開催されま
した。コロナ禍
ですと外部か
らの受け入れが
できていなかっ
たのですが、今
年は5年ぶりに
外部の人を招待
することができ
ました。



今回は内子高
校郷土芸能部の皆さんに、踊り
や太鼓の演奏を披露してもらい
ました。高校生の太鼓のリズム
に乗って手拍子をする人、うれ
しさのあまり涙を
流しながら演奏に
聞き入っていた人
もいました。

（済生記者
富岡優衣）



《奈良》老健シルバークア まほろば あんたの柄もええな

5月29日、併設する桜井市地
域包括支援センターきぼうが健
康フェスタを主催し、開催場所
の桜井西ふれあいセンターに25
人の地域住民が来場しました。
当施設もスタッフ4人で参
加し、「クラフト体験コーナー」

を担当。来場者には、さまざま
な柄の生地とワッペンから好き
なものを選んでもらい、レイア
ウトを考えトートバックに両面
テープで貼っていただきました。
生地を縦や横、斜めに「ど
う貼ろうかな？」とスタッフに
相談したり、友人同士で「いい
のきたやん」「そうやろ？」
あんたの柄もええな」と談笑し
たり、楽しんでいただけたよう

突然の火災に備えて

長崎病院

5月28日、長崎市中心消防署
の山川雄三さんと山口匡視さん
の監督のもと、「防火・避難訓練」
を実施しました。新人入職者を
中心に職員84人が参加。

今回の訓練では、昼間
帯に薬剤部で火災が発
生したシナリオを想定
し行ないました。

衛藤正雄院長から災
害対策本部立ち上げの
指示を受け、管理棟1
階ロビーに本部スタッ
フが集結。避難誘導班
が順次本部へ報告を行
ない、問題なくすべて
の避難が完了しました。
訓練後の講評では
「初期消火に失敗した
場合、煙が広がらない
ように扉を閉めて逃げ
ること」「自分の命を
最優先すること」との



指導をいただきました。
災害は予期せぬときに起こり
ます。どんなときでも冷静に行
動できるよう、これからも訓練
を重ねていきます。

（済生記者 大川七海）

うち3人は会場前の案内を見て、
当日飛び入りでの参加でした。
6月22日にも整形外科疾患をテ
ーマにセミナーを開催します。

（広報室長 松尾寛志）

〔愛媛〕 小田特養緑風荘
移動スーパーでお買い物

「買い物に行くのが不便」「買い物に行きたい」と感じている利用者さんが多かったことから、昨年より毎週一回、移動スーパーとくし丸に訪問してもらうようになりました。5月26日にも訪問販売があり、5人の利用者さんが買い物を楽しみました。実際に自分が商品を見て、欲しいものを選び、買い物できることは利用者さんにとって非常に楽しい時間であるようで、今では職員やドライバーさんと



「物が多いけん、どれ選んでええか迷う」「今度はいつ来るんぜ。来たら呼んでよ」などと話も弾み、楽しみの一つとして定着しています。

（済生記者 富岡優衣）

〔三重〕 医療型障害児入所施設
快適で安心なケアの提供

当施設では介護士が主体となり、定期的な研修を実施しています。第3火曜日はオムツ業者の講師がスタッフに対してマンツーマンで「オムツの正しい当て方や仕組み」についての講習を実施。これにより、利用者さ



んに「快適で安心なケア」を提供できるよう努めています。

5月20日にも2人が講習を受け、参加した介護士は「利用者さんの立場に立って、不快感を与えることなく正しい使用方法を習得できます」とコメント。講習を経て暗れてオムツマイスターとなり、スキルアップと同時に思いやりの気持ちを感じる事ができました。

（看護部主任 川口拓摩）

〔北海道〕 小樽病院
新たな医療形態へ改革

5月16日、当院と連携する小樽市内かかりつけ医療機関の医



師や職員約20人を招いて、講堂で地域医療連携懇談会を開催しました。これは当院の紹介受診重点医療機関への指定に伴い、6月からの初診時選定療養費引き上げを前に実施されたものです。

和田卓郎院長は「かかりつけ



的医療から、紹介患者さんを重点的に診る外来へと改革します。紹介して良かったと思ってもらえるよう、医療の質向上に努めます」と挨拶。続いて医療支援室の阿部亮室長が、選定療養費の徴収ルールを説明、各診療科の医師が特色や強みをPRしました。

最後に小樽市医師会の鈴木敏

夫会長が「今後も市民のみならず、圏域住民が充実した医療を受けられることを頼もしく思います」と期待を述べ、会を締めくくりました。

（済生記者 定 淳志）

〔愛媛〕 小田老健ふじの園
地元高校生が
インターンシップで来園

6月10日から3日間、当園と緑風荘（デイサービス）に地元・愛媛県立内子高等学校小田分校の高校生がインターンシップとして来園しました。当園には6月12日に5人の高校生が参加し、介護技術の講義と体験、入所者さんの昼食準備やレクリエーションを通して交流を図りました。参加した生徒さんは、福祉への興味が深く、当園が推進しているノリフティングケアの介護機器体験に「わすこい、楽や」と驚いたり、入所者さんへの声かけも積極的で、しっかりと笑顔で会話し「楽しかった」と感想を語ってくれました。

（事務 伊藤由美）

〔福井〕 特養聖和園
雨中のマラソン大会で
ランナーたちをサポート

5月25日、越前大野名水マラソンに当園職員4人がボランティアとして参加しました。あいにくの雨天となりましたが、ハーフマラソンコース第3給水所で地元地区の方15人とともに、水やスポーツ飲料、スペシャルドリンクを準備し、ランナーへ水分補給と応援を届けました。



た」と話しました。地域とともに支えるこの活動は、走る人だけでなく、支える人の心にもやさしい余韻を残すことができました。

（済生記者 野尻 宗）



ランナーには聖和園職員も！

〈埼玉〉川口総合病院
前立腺がんの新治療法
国内では2施設目

泌尿器科では今年3月から、厚生労働省の先進医療として「高密度焦点式超音波療法（HIFU）」を用いた前立腺がんの局所療法を国内2施設目として開始しました。

従来の前立腺がん治療は、手術や放射線治療といった前立腺全体を対象とした方法が中心でした。しかし、MRI・超音波



融合画像ガイド下前立腺生検の確立により、がんが疑われる部位を特定し、必要な部分のみを治療する新たな選択肢が広がっています。

副院長・泌尿器科主任部長の橋本恭伸医師は「この治療法は、限局性前立腺がんの患者さんに対し、排尿機能や性機能をできる限り温存しながら、がん治療を両立できる可能性が期待されています」と話しています。

（済生記者 原 衣里奈）

〈三重〉松阪総合病院
妊婦体験で母に感謝

わくわくワーク（職業体験）を5月13・15日の3日間開催し、松阪市内の中学3年生6人が参加しました。

薬剤部、臨床検査課、放射線課、臨床工学課、健診センターを見学し、手術室ではガウン装着、リハビリテーション課では杖歩行、産婦人科では妊婦体験を実施。さらに体験コーナーでは一次救命処置訓練、車椅子やストレッチャーでの移動、血圧測定を行いました。

生徒たちは最初は緊張した様子



子でしたが、体験後はいきいきとした表情に。体験後は「母親の体験をして親に感謝した」「手術室の見学や機材に触れて楽しかった」「いろんな職種の人が協力していることが分かった」「心臓マッサージを体験して人が倒れていても勇気を出して助けられると思う」などの感想がありました。

（看護部

立川菜緒子）

地域全体で医療を考え
守っていくために

〈神奈川〉横浜市東部病院



5月2日、下末吉と尻手の歩道橋に横断幕が設置されました。こちらは3月28日に綱島駅方面と鶴見駅方面の2カ所の道路標識横に設置された当院の看板と併せて進めていたものです。

高齢者医療や災害医療など医療需要はこれからもますます高まってくることが予想されるなか、適切に医療を提供し続けるには、地域全体で医療について考え、守っていくことが必要です。そこで

当院が発案し、鶴見消防署、幸消防署が協働し、国道1号線上の2つの歩道橋に横断幕を設置しました。この横断幕には災害への備えと救急要請に関する標語と当院までの距離が書かれています。

救える命を救うため、これからも地域で連携し、一人ひとりが災害時の備えと適切な救急要請を考えられるよう呼びかけていきます。

（済生記者 荒木愛美）

〈山形〉特養ながまち荘
消火器と発電機の
取り扱い方法を学ぶ

5月14日、初期消火訓練と自家発電機の取り扱い訓練を行い、新任職員を中心に18人が参加しました。



初期消火に不可欠な消火器の取り扱いについて、担当者から説明を受けた後、訓練用の消火器でいざ実践。職員が4人ずつ順番に「火事だ！ 火事だ！」と火事ぶれをしながら、想定した出火現場に向けて放水を行っていました。

その後は、停電時の電力供給を担う自家発電機の取り扱い訓練へ。慣れない機械の操作に若干戸惑う姿も見られましたが、説明を受けながら実際に作動させ、全員が無事に発電機を動かすことができました。

火災以外にも災害はいつ発生するか分かりません。有事の際に適切に対応できるように、今後も防災訓練に取り組んでいきます。（社会福祉士 大波孝至）



topics

済生会の理念に立ち返り 困窮者支援を考える

〈埼玉〉川口総合病院

3月3日、職員向けの生活困窮者支援研修会を開催し、外部関係機関からの19人を含め65人が参加しました。

今回は「貧困」をテーマに、作家・活動家の雨宮処凛さんを



でしたが、苗植えは今年が初体験でした。
(済生記者 定 淳志)



講師に迎え「貧困とは何か」「支援現場の実情」について話していただきました。
研修の最後には「健康相談が支援の入口になる」との言葉も。健康相談は、お金やこころの相談よりも気軽にでき、それをきっかけに生活支援につながるこ

とがあるそうです。
実際に当院が毎年実施している「ホームレス巡回健康相談」でも、直接の対話を通じ、受診や入院、支援につながった事例があります。
研修後には「社会的弱者の状況を聞いて驚いた。済生会の役割を理解し、今後の業務に生かしたい」などの感想が寄せられました。
(医療福祉事業課 柳光季恵)

〈大阪〉泉尾特養第二大正園 インスタ開設から半年…… 徐々にフォロワー増

昨年12月にインスタを開設し、半年がとうとうとしています。開設したもの、何を投稿したら良いかわからない、検索に引っ掛からない、フォロワー数が伸びない……などが当初の悩みでした。
いろいろな方からアドバイスをいただき、行事以外にも日常の細やかな一こ

dai2taisyouden_saiseikai
造幣局 桜の通り抜け



マなどをコツコツと投稿するようにしました。
すると徐々にフォロワー数も伸び、検索にも掛かるようになりました。うれしいことに、利用者さんのご家族と思われる方からの喜びのコメントをいただくこともできました。
施設のアピールや人材確保にはSNS活用が欠かせない時代です。今後も利用者さん、ご家族、求職中の方々に、参考になるような楽しい写真や動画をアップしていきます。皆さんもぜひフォローしてください。
(介護部・介護課長代理 廣澤千鶴子)



10周年で研究会のあゆみを振り返る

済生会臨床検査研究会

5月9日、グランキューブ大阪で済生会臨床検査技師長会議・済生会臨床検査研究会が開催され、45施設から約60人が参加しました。
会議では各ブロック会議の報告と、2025年度第6回アンケート調査報告を実施。また、多くの役員が定年などで入れ替わるため、役員交代の報告がありました。
続いて、済生会臨床検査研究

〈北海道〉なでしこキッズ クラブ

おいしい枝豆に育ってね 保育所園児が苗植え挑戦

6月13日、小樽病院内保育所「なでしこキッズクラブ」の子どもたちが、当院正門横の「済生会農園そらしーど」で枝豆の苗植えに挑戦しました。
前日までの低温や雨が嘘のように、晴天に恵まれた絶好の畑日和。園児14人は軍手を着用し、職員が掘っておいた穴に丁寧に苗を入れ、元気に育ってねと願いながら土をかぶせ、作業を終



えました。
収穫は8月下旬の予定。昨年同様、皆で収穫にも挑戦して、採った枝豆を園内で食べる日が



楽しみです。
そらしーどはクラウドファンディング「病院発の農園づくり」の支援金をもとに、昨年からは運営を開始。収穫品はウイングベイ小樽のふりもシヨップや、当院の特設販売所などで販売します。園児たちは昨年収穫を体験

大分県地域生活定着支援センター

刑罰者が求めているもの

5月のある日、高齢のAさんが刑務所を出所し自宅に戻りました。数年前に妻と別居し、子どもに迷惑をかけまいと、わずかな年金で暮らす中で困窮して罪を犯したAさん。不自由なく暮らしているようで、実は孤立してSOSを発すること



誰かとの交流のようでした。生きにくさや困りごとを抱える多くの人が求めているのは「つながり」。日々の支援からそんな状況が見えてきます。
(相談員 大石 陽)

〈山口〉貴船福祉ケアセンター よーけー水かけちよって

6月5日、デイスービスの利用者さんと職員合わせて12人でサツマイモの苗植えを行いました。昨年の品種は「紅はるか」でしたが、今年は栗のようなほくほくとした食感が特徴の「鳴門金時」を植えました。

特に印象的だったのは、普段杖がないと歩けない利用者さんが、苗の植え付けをするときには、杖を置いてシャキッと立ち上がり、植え方のお手本を見せてくれたことです。「まず、畝穴をほがんにやーいけん」と言い、指で土に穴を作り、その穴に苗を刺し、土をかぶせました。「これでええほつ」「よーけー水をかけちよってね」と言って3



今年も530運動で 地域の美化に貢献

5月30日、今年も長岡京市の530（ごみゼロ）運動に参加し、病院周辺のごみ拾いをしました。長岡京市では、毎年「ごみを拾うことにより捨てない心



本ほど植えると満足そうに戻っていました。
梅雨の時期には珍しく強い日差しが降り注ぐ中、利用者さんが畑仕事を職員に教える姿を見て感動しました。
(済生記者 中村雅之)

京都済生会病院

の担当者から説明を受けました。現在は先行工区の躯体工事は終わり、間仕切り壁の設置や窓サッシの取り付けが行なわれ、天井は配線や配管などの設備工事が進められています。立体化することで完成への実感も出て、郷良院長からは工事進捗や手術室の広さ、天井高などについて、城甲名誉院長からは外来診察室



の広さやレイアウトについて、それぞれ質問がありました。後行工区の躯体工事はこれから着手し、7月上旬に上棟、その後内装工事等を行ない、11月末に竣工・引渡し予定です。
(建築準備室 白井啓二)



を養うこと」を趣旨として、美しいまちづくりのためこの運動を実施しています。

当日は事務部、看護部を中心に34人が参加。病院周辺や最寄り駅までの歩道、公園などを回り、タバコの吸い殻やペットボトル、壊れた三角コーンなどのごみを回収しました。

参加した新人職員からは「このような活動が地域の環境保護につながることを実感した。今後環境美化活動に病院職員として参加したい」との声が聞かれました。
(済生記者 白須優也)

〈三重〉明和病院 日々の発見と気づきから 学びを深める

5月8日に教育委員会主催の看護研究発表会を開催し、日々の業務での発見や気づきなどをもとに3演題の発表がありました。

テーマは「リアリティオリエンテーションの意識調査」「口腔衛生状態について」「障害児の排便コントロールについて」。総勢50人以上の看護師が参加して熱心に聞き入るよう聴講し、

山口総合病院 南棟建築が着々と進行 院長らが現場を視察

南棟着工から約14カ月が経過した5月8日、郷良秀典院長、城甲啓治名誉院長、建築準備室のメンバーで工事現場を視察。屋上階から視察を開始し、戸田建設の現場工事所長、久米設計

活発な意見交換により学びを深めました。明和グループでは重症心身障害児（者）から認知症患者まで、幅広い対象のケアの質向上に取り組んでいます。
(副看護部長 椿 真弓)





④ 全カブレで観客を魅了
 6月8日、大井ふ頭中央海浜公園で第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が開催されました。
 薬剤部の鈴木将大さんが監督を務める当院は、野球経験者の新人も加わり、例年以上にフレッシュな雰囲気で大大会に臨みましました。
 初戦の〈東京〉向島病院戦

〈埼玉〉川口総合病院

（済生記者 堀越琴美）
 続いて2回戦は、今大会担当病院の〈東京〉中央病院との対戦。結果は完敗……。悔しい気持ちもありますが、今年はこれまでにない手ごたえを感じられた大会となりました。

敢闘賞をかけたトーナメントにまわり、1回戦で当たったのは〈茨城〉常陸大宮済生会病院。最終回で逆転し、3対2で見事勝利しました。実は昨年、神栖済生会病院・常陸大宮済生会病院・当院の3病院で親善試合を行なっており、顔見知りも多かったため、より親睦を深めることができました。

の一戦でした。

で見事勝利を収め、2回戦では東神奈川リハビリテーション病院と対戦。惜しくも敗れましたが、暑さの中で全力を出し切り、チームの団結力が光る熱戦となりました。
 試合中には当院職員がヘッドスライディングする場面も！
 「50歳を過ぎてのその全カブレに感動した！」と、毎年応援に駆けつけている職員たちからも歓声が上がりましました。
 鈴木監督からは「日ごろの練習の成果も感じられ、充実した一日でした」とのコメントが寄せられました。
 （済生記者 原 衣里奈）



⑤ 6年ぶりの出場！

高らかな選手宣誓も

6月8日、東京都の大井ふ頭中央海浜公園で第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が開催され、1都7県から16チーム・総勢368人の選手が参加しました。
 当院は新型コロナウイルスの影響や昨

年の雨天中止もあり、6年ぶりの出場。大会は東京開催ということもあり、当院の岡野寛大主将が見事な選手宣誓を務めました。

試合では、塚田信廣院長をはじめとする多くの応援団が見守る中、2試合を戦

いきましたが、惜しくも敗退という結果に終わりました。
 悔しい結果でしたが、選手たちは試合を心から楽しみ、普段の業務では接点の少ない職員同士も交流を深めることができました。

早くもチーム内では「来年こそは勝ちたい！」という声が上がっており、次回大会に向けて士気が高まっています。
 （放射線科 渡邊愛丈）



⑥ 2年ぶりのソフト大会 関東ブロック準優勝

〈群馬〉前橋病院

昨年は雨天中止となった関東ブロック親善ソフトボール大会。一昨年、四半世紀ぶりに優勝を飾った当院は、前監督の定年を機に新体制に。島田

及はず準優勝となりました。なお、院長が試合前ノックをし、副管理局長が送球を受け、管理局長が選手の飲み物運び、看護部長が写真撮影をするなど病院幹部が惜しみなく尽力する様子が見られ、当院の雰囲気を表していました。
 （総務課係長 藤枝寛明）

泰治新監督と多胡和輝新キャプテンのもと、目標を「関東制覇」、日曜朝のアニメのコンセプトから「前橋はぜったい負けない」をスローガンに、例年よりも練習の質・量ともにアップして6月8日の大会に臨みました。
 当日はチーム全員がリーダーシップとフォロウシップを発揮。監督の神采配も冴え、決勝進出できました。決勝では先制するも逆転され、追撃

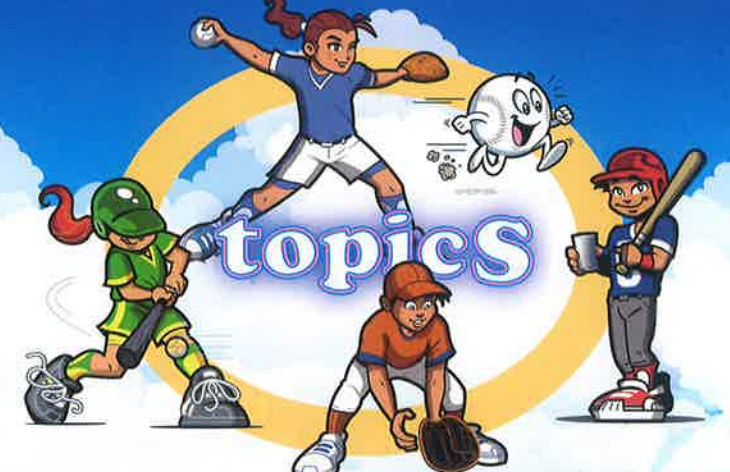


⑦ 全カブレと笑顔が光る

〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院

6月8日に関東ブロック親善ソフトボール大会が行なわれました。本戦トーナメント初戦の

相手は同ブロック優勝候補の一つ、〈栃木〉宇都宮病院。当院はファイナルプレーの連続で、1回終了時点でなんと1対0でリード。結果は1対3で負けてしまいましたが、皆大盛り上がり



〈埼玉〉加須病院

●どんなときでも楽しく！

6月8日、大井ふ頭中央海浜公園で行なわれた第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会に、当院の医師、看護師、事務員など多職種で構成された25人のチームで参加しました。



初戦と2回戦で勝利した当院は、準決勝と3位決定戦では敗れてしまいましたが、4位と好成績を残すことができました。当院は「どんなときでも楽しくソフトボールをしよう」という気持ちを大切にしています。そのため、試合中はベンチから選手に励ましや鼓舞、試合後にはねぎらい

や褒め言葉などポジティブな声援が飛び交う、にぎわいのあるチームでもあります。大会後も参加した全員が「楽しかったね」と言葉进行交流し、スポーツを通して楽しむメンバーの笑顔が多く見られました。

（済生記者 蓬田絵里子）

〈福岡〉二日市病院

●念願のBパート優勝！

第47回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会が、6月8日に佐賀県唐津市の相知天徳の丘運動公園で開催されました。

「今年こそBパートで優勝しAパート昇格を」とチーム一丸となって臨んだ当院。1回戦では〈鹿児島〉川内病院を相手に6対2で初戦を勝ち抜きました。続く2回戦の〈福岡〉飯塚嘉穂病院戦では、ヒットを重ね26対0で決勝進出を果たしました。

そして迎えた決勝戦。相手は昨年惜しくも敗れた福岡総合病院。しかし新メンバーを迎え、新体制となった今年の当院は日々の練習の成果を発揮。12対1で勝利を収め、念願のBパート優勝、そしてAパート昇格を達成しました。

（済生記者 都甲七桜）



〈大阪〉泉尾病院

●快進撃で決勝進出！笑顔つながる好プレー

6月1日、パナソニックアリーナグラウンドで大阪府済生会親善ソフトボール大会が開催され、当院のソフトボールサークルが出場しました。



昨年が初戦敗退に終わりましたが、今年は見事なチームワークで快進撃を見せました。1回戦（対新泉南病院）では12対1、2回戦（対中津病院）では11対4と大差で勝利。投打がかみ合ったプレーとチームの連携が光りました。野江病院との決勝戦では惜しくも敗れまし



たが、堂々の準優勝。選手たちは「来年こそ優勝を」と早くも次を見据えています。職種も部署も超えて、声をかけ合い、励まし合いながら全力で挑んだ一日。応援も含めて、職員一丸で楽しんだ、笑顔いっぱいの時でした。

（済生記者 高木明日美）

WEB掲載はじまりました！

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

〈北海道〉小樽老健はまなす はまなすガーデン 今年も稼働開始

当施設に隣接する塩谷小学校の全校生徒32人（1人欠席）が、5月28日に「はまなすガーデンそらしード」でイモの植え付けを行いました。
当日は、数日前の低温や雨が



嘘のような雲一つない晴天に恵まれ、絶好の畑作業日となりました。

昨年は1・2年生7人で7品種のイモを用意して行ないましたが、今年は男爵1種。昨年も作業を行なった2・3年生や高学年の皆さんは手際よく、1年生は施設スタッフや学校の先生に教えてもらいながら上手にイモを植えることができました。
終了後に生徒代表から「いろいろと準備してくれてありがとうございます」とお礼の言葉をいただきました。

8月下旬〜9月上旬の収穫に向けて、施設職員で大切に育てていきますが、生徒の皆さんも草むしりや水やりなどは一緒にこなっていく予定です。

（済生記者 伝法俊和）

神奈川県病院 救急隊との意見交換で 救急医療連携の質を高める

5月28日、病院と救急隊による意見交換会を開催しました。神奈川消防署の城田裕司署長をはじめ、救急隊員17人が来院。院内からは医師や救急対応に関わる看護師ら30人が参加し、活



気ある会となりました。

開会にあたり、長島敦院長が病院の救急体制や厚労省が発信している救急医療の今後について、続いて城田署長から救急隊の体制や出動状況について説明しました。次に、当院に搬送された三つの症例をもとに医師が診断・経過・その後を解説し、三つのグループに分かれて意見交換をしました。

救急隊からの質問に対し、医師が具体的な対応方針を説明するなど、互いの視点を知ること理解が深まりました。

（済生記者 小山友輝）

福井県済生会病院 米国の学生ら受け入れ 医療情勢の違いを知る

5月19日、米国・フィンドレー大学と福井県立大学の学術交流プログラムの一環として、フィンドレー大学の看護学生1人と医科助手2人、福井県立大学の学生3人と教員3人を当院で受け入れ、病院見学を実施しました。

はじめに協和枝副院長（看護部長兼任）が済生会の概要やソ



ーシャルインクルージョンの取り組み、そして当院の特徴的な活動を紹介。意見交換では、両国の保険制度の違いが話題に上がり、例えば日本では出産後の



職種や病棟の垣根を越えて 心不全療養指導士 Cafe

熊本病院

5月22日に「第1回心不全療養指導士 Cafe」を開催しました。このイベントは、心不全療養指導士が実践で直面する課題を共有し、心不全患者さんへのより良いケアを目指して学び合うことを目的に企画。当日は多職種の職員37人が参加しました。

会場にはお菓子や飲み物が用意され、和やかな雰囲気の中で進行。看護師や理学療法士による三つの発表の後、参加者全員で心不全指導・教育に関する

（山口）豊浦病院 認定看護師が出前講座で 「認知症のはなし」

5月24日、近隣の重本病院が開催するイベント「ハートオブしげもと」で認知症看護認定看護師の松岡一子さんと嶋野一成さんが出前講座を実施。患者さんやその家族、地域住民、病院スタッフなど約50人が参加しました。

7月1日は精神保健法の施行にちなんで「こころの日」とされていきます。重本病院では精神保健福祉の啓発活動として、地域住民向けイベントを開催。今回は「共生社会の実現」をテーマに、「認知症のはなし」の講演をしました。



ことを同時にする「コグニサイズ」に参加者全員と一緒に面白い、盛り上がりがありました。そのほかにもパンの袋詰めが当たるお楽しみ抽選会を実施しました。

（済生記者 西田千鶴）

て活動しています。今後もこのような学びと交流の場を継続し、心不全ケアの質の向上に貢献していきます。

（看護師 星原洸二郎）

〈新潟〉 特養長和園
三角ちまき作りを伝承

6月4日、介護予防教室でのイベント「三角ちまき作り」が開催されました。参加者は利用者さん8人、ボランティア1人、職員3人の合計12人。

三角ちまきは笹の葉でもち米を包み、イグサで縛ります。この縛り方が独特で、慣れるまで時間がかかります。ちまき作り



職員が山から直接収穫した色鮮やかな笹の葉を使用

のベテラン利用者さんに教えてもらいながら、和やかな雰囲気の中で作業を続けました。出来上がったちまきは一晩水に浸け、翌日たっぷりのお湯で茹で、皆でおいしくいただきました。

新潟県の伝統的な郷土料理である三角ちまきは、現在では作れる人が少なくなり、家庭で作る機会も減ってきています。このような中、介護予防教室の行事を通じて三角ちまき作りを体験し、新潟の文化を再認識できたのは大変貴重な機会となりました。

（済生記者 布施優子）

大分県地域生活定着
支援センター

刑務所での福祉的支援が
より重要に

本年6月、罪を犯した人に対する刑罰の「懲役」と「禁固」が廃止され、「拘禁刑」に一本化されました。「懲らしめ」から「社会復帰に向けた指導」に変わり、刑務所における福祉的な支援の役割が増していきます。

こうした中、5月16日に大分県庁（大分市）で大運動会が開催され、筆者は開会式で来賓挨拶を任せられました。朝礼台に立つて目の前の受刑者約

700人を見渡すと、若者から高齢者、元気で丈夫そうな人から身体が不自由そうな人まで、いろいろな姿が見えました。運動会では、高齢者や配慮を要する受刑者が参加できる競技として、「玉入れ」を初めて実施。新たな取り組みが進んでいくことを実感しました。

（センター長 御手洗和也）



山形済生病院

時代に沿った
リーダーシップの発揮を

6月13日に院内職員研修の一環として、スキルアップ研修を行いました。株式会社TMC経営支援センターから講師を迎え、中堅クラスの職員25人が、リーダーシップ・フォローシップについて学びまし



た。

研修では、時代によりリーダーシップは変化しており、現代は信頼関係を重視し、部下とともに同じ目標に向かっていく特徴があることなどを学びました。グループワークでは、主体的に行動すべき場面で行動できなかったことがなかったか、自部署の課題解決のためにはどう取り組めばよいかについて意見を交わしました。

今回学んだことを、実務でのチームワークや課題解決につなげていきます。

（済生記者 柏倉汐里）

和歌山病院

自己紹介でドキドキ

5月16日、和歌山市にあるダイワロイネットホテルで職員互助会・新入職員歓迎会を開催しました。

今回の歓迎会対象者は、今年1月以降に新たに当院に加わった26人で、当日は23人が参加しました。

開催にあたり、川上守院長から温かい挨拶がありました。続いて、新入職員たち一人ひとりに自己紹介の時間が設けられ、



済生会和歌山病院職員互助会 総会 新入職員歓迎会

名前が呼ばれた職員は緊張した様子で、所属部署と氏名の発表を行ないました。自己紹介の後はおいしい食事や飲み物が振る舞われ、和やかな雰囲気の中で交流することができました。

総勢141人ものスタッフが集まり、新しい職員と共に絆を深め楽しい時間を過ごすことができました。

（済生記者 松元靖寿）

〈三重〉 松阪総合病院

おいしいクッキーは
いかがですか？

5月1日、就労継続支援B型事業所「お菓子工房M」による、約3カ月ぶり2度目とな



る出張販売が職員食堂前で行なわれました。

今回は当日販売に加え事前販売も行ない、売れ筋商品のチーズケーキは注文方式で当日受け渡しすることで、多くの職員が手にすることができました。

当日は色とりどりのクッキーやプリンなどの洋生菓子が並べられ、11時の開店時間に事業所の皆さんから「いらっしやいませ！ おいしいクッキーはいかがですか？」と元気な声で迎えられました。

14時には事前注文分を含め全380個のお菓子が売り切れ。空っぽになった売り場を見て、皆さんからは満面の笑みがこぼれていました。

（医療相談室 社会福祉士係長 奥村裕司）



topics



なかなかできず、意識を高める必要性を痛感した」といった意見が聞かれました。また、「職員一丸となって生産性向上に取り組んでいくことが重要だ」との声も上がりました。

今後はペーパーレス化や空床日数の軽減など、部署ごとの経営改善目標を達成するとともに、居宅と他職種間の連携に力を入れ、地域住民から選ばれる施設となることを目指します。

(済生記者 岩田恭寛)

「医療と地域をつなぐために済生会ができること」をテーマに、当院の大澤俊哉病院院長など医療の専門職が、「病気の後のケア」について発表を行いました。

治療後の不安に寄り添うケアに対し、「もっと早く知りたかった」「家族と話して参考にしたい」などの共感が得られ、済生会の地域連携の取り組みや、誰一人取り残さない医療の姿勢が伝わる内容でした。



岡山済生会外来センター病院
医療と地域をつなぐために
済生会ができること

5月31日、さいゆうホールで「第38回岡山済生会市民健康セミナー」を開催し、83人が参加



3月31日からオンデマンドバスの「お送りサービス」が始まりました。同バスは今年2月に「お迎えサービス」で運行をスタート。このたび「送迎」が可能になりました。

この送迎は完全予約制で、時刻表や固定ルートはなく、発着は紹介元の診療所。患者さんは普段通り慣れた場所から迷うことなく出発し、安心して通院することが出来ます。予約状況に応じてAIが最適なルート

自動で調整。すべての便が座席指定・無料で、一部の車両では車椅子や介助にも対応しています。

この取り組みは単なる移動手段ではなく、患者さんが安心して医療につながるための橋渡しです。私たちは、かかりつけ医から託された安心のバトンを、確かな医療と丁寧な送迎で受け継ぎます。

(済生記者 高木明日実)



〈大阪〉泉尾病院

また、ACP（人生会議）についても体験談を交えて紹介、「元氣なうちに話し合いたい」といった前向きな感想が寄せられました。

(総看護師長 茅原路代)

安心して医療につながる架け橋に



〈石川〉こども園アイリス
晴れた！笑った！
楽しい親子バス遠足

5月27日に親子バス遠足を開催し、2〜5歳の子どもたちと保護者、総勢97人が参加しました。

目的地の奥卯辰山健民公園に向かう大型バスでの移動中から、子どもたちは大興奮。到着後は、親子でアップダウンのある道を歩き、「あいいうえお体操」などで体をほぐしました。

ネイチャーゲームでは、手作りの望遠鏡で自然を散策し、動物に見えるものを探しました。子どもたちは豊かな想像力を発揮し、大人も笑顔で見守る微笑ましい光景が見られました。広大な園内での遊びは尽きず、保



護者同士の交流も深まりました。待ちに待ったお弁当の後は、製作コーナーで竹とんぼや紙ヒコーキ作りを楽しみました。完成した作品を手に芝生を駆け回る子どもたちのたくましい姿と、それを見守る保護者の温かい眼差しが印象的でした。

(保育士教諭 清水百合子)

〈埼玉〉加須病院
職員向けBLS研修初開催

6月10日に院内BLS研修を初めて開催し、医師・看護師・理学療法士・事務員など合計17人が参加しました。

BLSは心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置（心肺蘇生法）です。院内で患者さんが突然心肺停止などになった場合に備えて、全ての職員が一次救命措置を知っておくことは医療機関として重要です。特にBLSは正しい知識と処置さえ知っていれば誰でも実施できる蘇生法であり、適切な実施により救命率を上げるスキルです。

一人でも多くの職員が受講できるよう定期的に研修を行ない、院内全体のスキルアップにつな



げられるように、病院全体で技術向上に取り組んでいきます。

(済生記者 蓬田絵里子)

〈山形〉特養やまのべ荘
職員一丸で経営改善へ

5月28日、当荘の多目的ホールで全体職員会議を開催し、60人の職員が参加しました。

令和6年度の決算状況をもとに済生会の厳しい経営状況を共通認識として把握し、今後の施設運営の方針を確認。また、済生会の施業救済の精神、当荘の理念を質問形式で確認する時間を設けました。

参加者からは「自信を持って施設運営理念を答えることがな



〈山口〉下関総合病院

一番人気は血管年齢測定

当院では5月13日に看護の日記念行事として、医師・薬剤師・理学療法士・栄養士による健康相談、血圧・血管年齢・体脂肪測定、手洗い体験、AED体験、白衣体験などを行ないました。参加者は延べ314人で昨年より100人以上多く、大盛況でした。

一番人気は血管年齢測定で、参加者は結果に一喜一憂していました。また、スタンプラリーも行ない、全制覇する方もいました。



白衣体験では、皆さん最初は気恥ずかしさもあったようですが、最近では見ることもなくなったナースキャップを被ってバラの横で写真撮影をするのを楽しんでいました。患者さんや家族との楽しい交流の場となりました。

（看護師長 清水倫子）

〈福岡〉大牟田病院

手作りポスターで健康増進

5月13～16日の4日間、毎年恒例の「ふれあい看護週間」のイベントを開催しました。

今年度は手作りポスターを充実させ、「骨粗しょう症」「大腸ポリープ」「胆石症」「ジューズに含まれる砂糖の量」「熱中症

予防」など、身近なテーマを分かりやすくまとめました。ほかにも、健康チェック（血圧・身長・体重・筋力測定）、手洗いチェック、乳がんセルフチェック、栄養相談、介護相談などを実施し、延べ216人が参加しました。

手洗いチェックでは、専用機器を使って洗い残しを確認。また、健康チェックや相談コーナーでは、食生活や日頃の体調管理についてスタッフと直接話ができる場となり、終始にぎやかでした。

参加者からは「待ち時間に楽しく過ごせた」「スタッフの方と気軽に話せてよかった」など



うれしい感想を多数いただきました。

（看護部課長 藤吉初美）

愛知県済生会

リハビリテーション病院

骨粗鬆症関連の測定で地域の方々と交流

5月17日、地域の方々との交流を通して、健康意識の向上を



図るとともに看護の心を伝えられるように看護の日イベントを開催しました。

当日はあいにくの雨模様で集客が心配でしたが、小さなお子



の試飲やエアマット体験などを実施。今回は「看護の日」でも

〈埼玉〉鴻巣病院

長年の尽力に敬意と感謝 平賀副看護部長が知事表彰

5月14日に行なわれた「令和7年度埼玉県看護功労者知事表彰式」で、当院の平賀洋子副看護部長が表彰されました。

この表彰式は、5月12日の「看護の日」と5月11～17日の「看護週間」にちなんで実施。看護職員としてその業務に永年励み、特に功績のあった人を表彰するものです。令和元年の開催以来742人が表彰され、今年度は21人が受賞しました。

平成8年に当院に入職し、長

埼玉県看護功労者知事表彰式



年にわたり精神看護に誠実に取り組み組んできた平賀副看護部長。令和2年4月に現職に就任し、



専門性を生かした市民講座

〈大阪〉野江病院

5月12日に当院1階ロビーで認定看護師市民講座を開催しました。当院では、現在9分野12人の認定看護師が活動しています。当日は乳がんセルフチェックやハンドマッサージが体験できる「がん関連ブ

ース」、AED体験を含む「心

肺蘇生ブース」のほか、栄養剤

など、身近なテーマを分かりやすくまとめました。

ほかにも、健康チェック（血圧・身長・体重・筋力測定）、手洗いチェック、乳がんセルフチェック、栄養相談、介護相談などを実施し、延べ216人が参加しました。

手洗いチェックでは、専用機器を使って洗い残しを確認。また、健康チェックや相談コーナーでは、食生活や日頃の体調管理についてスタッフと直接話ができる場となり、終始にぎやかでした。

参加者からは「待ち時間に楽しく過ごせた」「スタッフの方と気軽に話せてよかった」など

図るとともに看護の心を伝えられるように看護の日イベントを開催しました。

当日はあいにくの雨模様で集客が心配でしたが、小さなお子

あつたため、ナイチンゲールの顔出しパネルで撮影会ができる面白ブースも取り入れ、終始にぎやかな雰囲気の中で市民講座を行なうことができました。

約50人のさまざまな年代の方が参加し、「こんなに明るくハッピーな気持ちで病院から帰宅できるなんて初めてでうれしかった」「手のマッサージが気持ちよかった」などの感想がありました。

（集中治療室 クリテイカル ケア認定看護師 三宅朋子）



朗らかな人柄で看護部長を支え、患者さんたちへの対応に尽力しています。

受賞について「コロナ禍においては、感染対応病棟の運営や一般の方へのワクチン接種など病院を上げて取り組みました。それも選考理由になっていると思うと一層光栄です」と語っています。

（済生記者 田島利恵子）

（三重）明和訪問看護

ステーション

「看護の日」を迎え 決意を新たに



訪問車両は、訪問看護師になくてはならないツールの一つ。「看護の心も乗せています」

5月12日は「看護の日」。ナイチンゲールの誕生日にちなんで「看護の心、ケアの心、助け合いの心」を育むきっかけとなるよう制定されています。

明和グループの在宅部門の拠点である当施設には、現在8人の訪問看護師が在籍。看護の日を迎え、看護師たちは決意を新たにします。そこに私たちを必要とす

る方がいる限り、手を差し伸べ続ける——。その思いを胸に、ナイチンゲールのように、この日も在宅でケアを必要とする利用者さんのお宅へと向かいまします。

（副看護部長 椿 真月）

（北海道）老健はまなす

小学生6人が慰問発表で 歌やソーラン節を披露

6月6日、塩谷小学校3年生6人が慰問発表のため当施設を訪ねました。当初から予定していた通所利用者さん約20人に加え、入所者さんも10人ほど鑑賞しにきました。

この催しは地域交流の一環で、自分たちが住んでいる地域の施設について知り、学習で身に着けた演舞や演奏を披露する目的で行なわれました。

緊張した面持ちで登場した児童たちは、合唱曲「BELIEVE」、鍵盤ハーモニカ演奏「春の小川」、最後に運動会でも披露した正調ソーラン節の演舞を元氣いっぱい披露してくれました。手拍子したり、一緒に歌ったりと利用者・入所者の皆さんは大喜び。児童



たちは「運動会より緊張した!」「こないっぱいの人の前で発表するの初めて!」などと充実感にあふれていました。

（済生記者 伝法俊和）

（大分）日田病院 新人看護師に向けて 熱い指導で成長を願う

4月に12人の新人看護師が入職し、4月3日から本格的に看護部オリエンテーションを開始しました。

その中の「新人看護師に必要な基本姿勢と態度」では、新人が自己分析を通して課題を明確



化し、その解決のための具体策を考えました。その結果、「悩んだときは先輩方に相談する」「焦らずに一呼吸おいて行動する」などの解決策を出すことができました。

済生会看護部リクルートサイトオープン!



あなたも「なでしこナース」になりませんか?



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

（東京）向島病院 シナリオを開封して進行 続々入る情報を処理する

5月31日、墨田区および墨田区医師会、区内医療機関合同の災害対応訓練が実施され、当院からは防災委員14人が机上訓練に参加しました。

訓練は配布された想定シナリオを指定時間に順次開封して進行。記載された内容を基に、院内の被害想定をクロノロジー記載し、E M I S 緊急時入力を

実施します。その後、墨田区で震度6強の地震であったと判明。院内の被災状況や、多数傷病者受け入れのための区本部への支援・搬送依頼等の内容が盛り込まれ、計8つのミッションに対応しました。

参加者からは「訓練でも次々に入る情報に対応する難しさを実感した。訓練を重ねて災害に備える重要さを認識した」との感想がありました。

（総務課長 加藤義也）



**音楽の奇跡！
心に響くコンサートを開催**

6月17日、当院1階のピアノホールで、がん体験者・KEI KOさんと、元NHKのど自慢ギタリスト・KOUJIさんによる、スペシャルコンサートが開催され、入院患者さんや来院者、職員など約60人が鑑賞しました。

KEI KOさんは自身のがん闘病の経験をもとに、音楽を通

福井県済生会病院

を行ないました。さらに、看護体験として、看護師のユニホームを着用し、病棟看護師のシャドーイングをしながら静脈注射や栄養剤の準備を見学しました。

看護職員との懇談会では「短時間で数多くの看護師さんとお話できた。自分の将来の参考になり、有意義な時間を過ごせました」という感想も。仕事のやりがいや苦労について話を聞く貴重な機会となったようです。

このプログラムを通じて、看護の世界を身近に感じることで、参加した高校生の進路選択の一助になれば幸いです。

(広報室 鈴木香純)



じて生きる勇気や癒やしを届ける活動を続けています。今回はKOUJIさんとの共演で、童謡や演歌、最新のヒット曲など、約20曲を披露しました。

「私も仲間の支えがあったからこそ、闘病生活を乗り越えられました。今日の歌が、少しでも応援歌になればうれしいです」とKEI KOさん。患者さんからは「すてきな機会をありがとうございました」と感謝の声が寄せられました。

(済生記者 橋本来林)

**国を越えて
災害医療を考える**

5月22日、タイ王国バンコク都庁保健局の視察団40人が当院を訪れました。

訪問に際して講義の準備をしていましたが、3月28日に発生したミャンマーを震源とする大地震を受け、講義内容を災害医療に重点を置いたものに変更しました。

約1時間半の講義では、災害拠点病院としての役割や、DMAT(災害派遣医療チーム)の活動について紹介。令和6年能登半島地震への対応については、筆者自身のDMATとしての活動経験をともに、映像も交えながら現地での対応の様子を具体的に伝えました。

質疑応答では、災害医療体制や医療文化の違いに関する質問が多く寄せられ、活



(看護師 生野広樹)

発な意見交換が行なわれました。国を越えて災害医療について考える貴重な機会となり、互いの理解が深まったと実感しています。

救急医療支援室で救急救命士が活躍

福岡総合病院

4月1日、救急医療支援室を開設し、新人から経験豊富なベテランまでの救急救命士5人が勤務しています。

2021年10月の法改正により、救急救命士が病院内で医師の指示のもと救命処置を行なえるように。そこで救急救命士がその専門スキルを存分に発揮し、医師や看護師と連携してタスクシフトを進めるなど、チー

ム医療の一員として貢献することを目的として、今回の開設に至りました。

現在は関係部署と協力しながら本格始動の準備をしているところ。今後は、主に初療室で救急搬送された患者さんの対応や、病院救急車による入院患者さんの転院搬送などに従事する予定です。

(経営企画課 木下昌子)

**「兵庫」ふじの里
デイサービスセンター**

いなくてはならない存在

4月21日、当施設地域交流ホールでボランティアグループ「リラの会」と交流会を開き、ボランティアさん12人と職員4人が参加しました。日頃のお礼として食事をふるまい、ボランティア作業の流れや車椅子操作等の確認と、意見交換会を実施しました。

毎日1〜2人がボランティア活動をしていて、デイサービスでは午前中の入浴後の利用者さんのドライヤー、話し相手など



をしています。コロナ禍で一時的に中断もありましたが、2023年5月から再開。施設にとっていなくてはならない方々です。

ボランティアさんからは「利用者さんにたくさん声を掛けるように」などの利用者さん目線での助言があります。職員目線では気がつかないこともあり、改善できるようにしています。

(通所介護課長 山下芳樹)

**高校生が看護の世界を
一日体験学習**

(東京) 中央病院

5月14日、東京都看護協会から運営受託し東京都ナースプラザが主催する「一日看護体験学



習」が当院で行なわれ、都内の高校3年生3人が参加しました。参加者は病院の施設概要について説明を受けた後、施設見学

〔三重〕 松阪総合病院
「生命の駅伝」に
7人のランナーが参加



がん患者や医療関係者が三重県内をリレー形式で走り、がん研究への支援のために募金を呼びかける「生命の駅伝」。がんの予防・発見・治療に向けた研究を募り、選ばれた研究に募金が贈られます。

31年目の今年は、5月14～31日までの期間中、県内の市役所や病院などに立ち寄りながら約400キロを走り、募金は全額、がん研究の支援に充てられます。

23日の駅伝には、当院腎臓内科の野田真理子医師、管理栄養課の松本由紀課長、平野信長研修医、横山凌大研修医、高橋慧研修医、倉田幹大研修医、医学部実習生の岩崎哲也さんを

駅伝でがん研究の
バトンをつなぐ



5月23日、がん研究を支援する「第31回生命の駅伝（伊勢・松阪コース）」が開催され、ランナーたちが当院を訪れました。この日は伊勢市から松阪市までの約40キロを走り、途中、当院

〔三重〕 明和病院

含む15人がランナーとして参加。伊勢市内を出発し、午後4時半過ぎに最終目的地の当院に到着。垣本斉副院長からランナーに募金箱が手渡されました。

（総務課主任 中島朋子）

に立ち寄るコース。明和グループは長年、同活動を応援しています。

当院職員からの募金が入った募金箱が村田浩人副院長からランナーで医師でもある高橋慧さんに手渡されました。NPO法人「生命の駅伝」の上村泰子理事長は「昨年までの30年間で募金総額は5468万5225円、総支援研究は124件になりました。一人ひとりの力は小さなものですが、皆の支援を積み上げていくと驚くほどの力になります」と支援の継続を訴えていました。

（介護保険部門課長 姫子松俊弘）

〔福岡〕 飯塚嘉穂病院
バランススコアカード報告
各部署の取り組みを共有

当院では令和6年度の締めくくりとして、5月16日と22日に院内各部署が1年間取り組みできたBSC（バランススコアカード）の最終結果報告会を開催し、延べ77人が参加しました。BSCの報告会は三半期ごとに実施しており、今回は令和



6年度の総括となる重要な報告会。診療科を除く25部署が発表を行ない、各部署の所属長が5分以内で、1年間の取り組み成果を報告しました。

各発表後には3分程度の質疑応答時間を設け、活発な意見交換が行なわれました。院内スタッフは部署を問わず誰でも聴講でき、他部署の取り組みを学ぶ貴重な機会となっています。

各部署の1年間の努力と成果を院内全体で共有し、病院の目標を達成するために各部署が取り組むことの大切さを再確認できました。

（経営企画室長 春口勇介）



写真右が筆者

世界最大規模の学会で発表
〔岩手〕 北上済生会病院

5月29～31日に東京国際フォーラムで開催された世界理学療法連盟学会で、「4カ月以内に介助歩行を獲得した重度外傷性脳損傷患者の症例報告」の発表をしました。今回は全世界から5000人以上の参加者とともに

3355の演題登録があったよう、理学療法関連では世界最大規模の学会でした。

発表・質疑はすべて英語で行なわれ、英語が不得手な私は積極的に討議に参加することはできませんでした。が、国際的な理学療法法の潮流や各国の理学療法の実情を把握することができました。

臨床の理学療法士として進むべき方向性が確認でき、今後は社会ニーズに対してもしっかりと科学の観点から提言できる療法士を目指したいと思います。

（リハビリテーション科 菅原優帆）

〔福井〕 特養聖和園
忠魂碑の清掃活動で
地域住民との距離縮める

6月2日、聖和園の地域交流委員会職員5人が、富田地区忠魂碑の清掃活動に参加しました。老人会の「高砂会」が主導し、約40人が集まりました。

翌週7日に行なわれる慰霊祭を前に、戦没者への敬意と感謝を込め、地域の方々と共に草を取り、落ち葉を拾いながら整備

を進めました。時折、作業を止めて碑に手を合わせる住民の皆さんの姿に、私たちも胸が熱くなりました。

参加職員からは「一緒に汗を流すうちに、地域の方々との距離が少しずつ近づいていくのが分かりました」というコメントも。当園は、これからも地域とともに、心をつなぐ歩みを大切にしていきたいです。

（生活記者 野尻 宗）



〈山形〉特養愛日荘 頭上に泳ぐこのほり 音楽療法で心身を健康に

当施設では平成14年から、音楽療法士を中心に音楽療法を行なっています。現在はオンラインで実施しており、懐かしい曲を用いて、入居者の心身の健康を目指しています。



ここで使用する音楽は、入居者さんの回想や自己表現、楽器演奏等の活動促進につながっています。毎回、入居者さんからは「懐かしい音楽が若いころを思い出させてくれる」との感想をもらいます。

5月の音楽療法では、音楽療法士がこいのぼりの曲の振りに「こいのぼりが天井を泳いでいます」

よ」と頭上のこいのぼりを指さすと「あっ！ こいのぼりだ！ 今気づいた」と笑顔と驚きが広がりました。まさか頭上にあるとは思わなかったようです。

施設にある小道具を上手に活用して、活動性を促すことの大切さを感じました。

（済生記者 高橋 睦）

兵庫県病院

SC内の保健室開設1周年 記念の健康フェア開催

昨年4月にショッピングセンター内に開設された「リラの保健室」



健康維持・増進を目的としたこのイベントでは、七つのブースが設けられ、スタンプラリー形式で進行。36家族、合計48人が来場しました。

当院が出席したブースでは、災害支援ナース2人が災害発生時の具体的な対策を説明し、100円ショップで手軽にそろえられる防災グッズを紹介。参加者からは「防災意識が高まった」「100円ショップで買えるなら、すぐにでも取り入れたい」との声もあり、多くの方に興味を持っていただくことができました。

（看護部 林 睦美）

〈滋賀〉守山市民病院

病院機能評価で一発合格

1月14・15日の2日間、日本医療機能評価機構による病院機能評価（機能種別・リハビリテーション病院）を受審しました。準備期間は2023年1月

員には相応の負担もあり、また初受審ということも緊張もしていましたが、当日はサーベイヤールからお褒めの言葉やアドバイスをいただくことができ、自信や達成感につながりました。

多職種が連携しそれぞれの役割を果たした結果、5月9日に改善要望事項なく認定され、一発合格となりました。

（済生記者 中嶋元香）



のキックオフから2年間。その中で、日々の業務に加え昨年7月の病院情報システムのリリース、11月の「済生会リハビリテーション研究会 in 滋賀」など病院全体で取り組むイベントも同時進行していました。職

済生丸に乗船し 宇和海合同診療に参加

（愛媛）松山病院

5月13・16日、筆者は瀬戸内海巡回診療船・済生丸に乗船し、宇和海に浮かぶ五つの島々へ診療に行ってきました。診療班は今治病院、今治第二病院、西条病院、幹事病院である当院の4病院の職員45人と、宇和島市八幡浜市の保健師からなる合同チームです。

内容としては医師による診察や健康指導、採血や大腸がん検査、レントゲン、胃透視、心電図検査などで、4日間で計227人の診療を行いました。



た。

島の皆さんからは「今年も来てくれてよかった。ありがとう」と感謝の言葉をいただきました。巡回診療を通して済生丸が島の皆さんの健康を守るだけでなく、人と人との絆も結ぶ診療船であることを実感しました。

（臨床検査部 香川綾夏）

〈山口〉豊浦病院

地域のスーパーで 「まちの保健室」を開催

5月17日、ゆめマート川棚で「まちの保健室」を開催し、50人以上の方が来場しました。当院からは看護師、看護補助者、事務の計8人が参加しました。

毎年恒例の健康相談、血圧測定、体脂肪測定、子ども向けの企画として手形スタンプ、白衣写真撮影、お菓子や風船の配布を行ないました。立ち寄った方から「先月おたけで手術したんですよ。おかげで元気になったよ」と声をかけられ、うれしい気持ちになりました。

地域スーパード



イベント実施により、近隣住民と顔の見える関係づくりが構築できます。また、その時々に合わせて健診リフレットやインスタグラムのPRチラシ等、発信したいものの配布ができるといった利点も感じています。

（済生記者 西田千鶴）

topics



分の人生についていろいろな人と価値観を共有するコンテンツを用意しました。
どのブースも順番待ちが発生する場面があるほどの盛況ぶりでした。

(済生記者 南川茉悠)

つてもうために、近隣の医療・介護・福祉事業所がそれぞれの専門分野で体験・参加型のコンテンツを提供しました。
当院からは救急診療科が「心臓マッサージ・AED体験」、産婦人科が「妊婦・赤ちゃんの重さ体験や性教育」、外科が「外科医の仕事体験」を出展。看護部は「もしもサロン」と題し、万が一の時にどうしたいか、自



6月12日、当園の会議室で認知症対応型通所介護「わらびようデイサービスセンター」の運営推進会議が開催されました。本事業所は、市内で唯一の認知症に特化した通所介護事業所として、重度の認知症の方から若年性認知症の方など、多様な状態に応じた個別支援を行なっています。

当日は、ケアマネジャーや市町村職員、民生委員など17人が参加し、サービスの内容や日々の取り組み、地域との連携の現状について報告しました。参加

個々に合った認知症ケア 地域と連携して実践

〔福井〕特養聖和園



〈山形〉はやぶさ保育園 楽しかった遊ボール

5月15日、山形県ソフトボール協会のご厚意で、5歳児クラス23人と4歳児クラス22人で「遊ボール」を体験しました。
日本女子ソフトボールリーグのVONDS市原と平林金属の皆さんが来園し、子どもたちと一緒にソフトボールに触れながら楽しみました。タオルにボールを乗せてリレーを楽しんだり、柔らかいバットでボールを打ちました。最後に選手からサインボールをもらい、大切に手にしていました。



翌日には、両チームの試合を5歳児クラスで観戦。子どもたちは目を輝かせ、大きな声援を送りました。
子どもたちの中には、今回の体験でソフトボールに興味を持ち、休日に保護者と試合観戦に行った園児も。それほど子どもたちの印象に残る体験となりました。

(済生記者 熊谷舞寿美)

健診センターで AI 電話受付開始！

福井県済生会病院

医療現場では人手不足や働き方改革への対応が課題となっており、AIやICTを活用した業務の効率化が急務となっています。特に健診センターでは特定の時間帯に電話が集中し、予約の電話がつかりにくいという問題がありました。

当院健診センターは6月2日から、これまで職員が対応していた健診予約・変更・キャンセルなどの電話業務を、AI電話受付システムに切り替えました。

そこで、受診者の利便性を高め、職員の負担軽減にもつなげるAI電話の導入を決定。AIが自動応答を行うことで、受診者とのコミュニケーションの質を維持しながら、よりスムーズで快適な予約体験の提供を実現したいと考えています。

(済生記者 橋本来林)

2025年6月2日から
健診予約の電話がAIに変わります！

050-1726-0205

受付時間 月～金 8:00～20:00
土・日・祝 受付不可

人回しをすることで
AIに話しかけてください

詳細はこちらをクリック



いのちの大切さ知る 参加・体験型ブースを出展

5月18日、港南ふれあい公園をメイン会場として「港南こはまメディアカルフェスティバル2025」が開催され、約2500人が来場しました。昨年初開催の同イベントは、地域住民にいのちの大切さを知



リハビリテーションについて」消化器内科部長の川口雅功さんが「脂質性肝疾患・ウイルス性肝炎・自己免疫性肝疾患・肝硬変・肝がんの最近の話題」と題して講演。続いて、リハビリテーション科・理学療法士の前馬文香さんによる「肝臓にいい運動」では、参加者全員で体を動かしました。

講演後には医師による無料健康相談や血圧・体脂肪測定会などが行なわれ、時間が足りないほどの大盛況となりました。

(済生記者 松元靖寿)

肝臓病市民講座に99人 和歌山病院

(済生記者 野尻 宗)

5月17日、イオンモール和歌山で「肝臓病教室市民公開講座」を開催しました。当日の天気は大雨でしたが、悪天候にもかかわらず昨年の参加人数を上回る99人が参加しました。

今年のテーマは「脂質性肝疾患、ウイルス性肝炎、自己免疫性肝疾患、肝硬変、肝がん、



〈山口〉下関総合病院 骨粗鬆症対策として リエゾンサービス実施

4月11・12日に横浜市で第37回日本ハンドセラピィ学会学術集会在開催され、751人が参加しました。筆者は講演「骨粗鬆症に対するハンドセラピストの役割」を行いました。

手外科領域では高齢化により、「骨粗鬆症を知らせる骨折」と言われる機軸遠位端骨折が増加。当院ではこの骨折の患者さんに骨粗鬆症の治療を受けてもらい、



左から2番目が筆者



重篤な骨折の予防として、骨粗鬆症リエゾンサービスを行っています。

発表では、このサービスで骨粗鬆症の病態、食事・運動療法、検査の奨励など幅広く行なっている、対象を選別することで少数スタッフでも検診率や治療継続率が向上することを報告しました。

（作業療法士 相田芳徳）

〈山形〉特養ながまち荘 終業後の火災を想定 自宅から駆け付ける

6月11日、当荘で緊急通報・招集訓練を実施しました。新型コロナウイルスの影響で中止されていた本訓練は、5年ぶりの

実現することで、持続可能な社会の実現に向けて、医療現場からできることを着実に進めていきます。（済生記者 大園晶洋）

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑 うちわ作りを楽しんで！ 思いを込めた装飾制作

6月7日に静岡済生会総合病院が開催した済生会フェア2025でのブース出展に際して、5月29・30日に入居者さん9人と事前準備を行ないました。

うちわ作りを楽しむ「夏らしいブース」をテーマに、「花火」という型どりをしたペーパーフィルターに模様を描いて水を吸わせ、「花火」の飾りを作りました。「あまり難しく考えないで適当



再開。職員47人と地域の自主防災協力員10人、家族会3人の合計60人が参加しました。

訓練は職員の終業・帰宅後を想定し19時に開始。ボイラー室から出火したとして、連絡網で連絡を受けた、いったん帰宅した職員が施設に駆け付けました。施設到着後、参加職員は防災に関する全6問のミニテストに取り組み、災害時の初動対応について改めて確認しました。

訓練は20時5分に全予定が無事終了し、施設全体の防災意識向上と体制強化につながる有意義な時間となりました。

（通所介護事業所 副主任介護員 伊藤雄太）



〈福岡〉二日市病院 単回使用医療機器 再製品化の取り組み開始

4月1日、日本ストライカー株式会社と「再生部品の取り扱い及びその保管方法等に関する契約書」を締結し、R・SUD（単回使用医療機器の再製品化）の取り組みを開始しました。

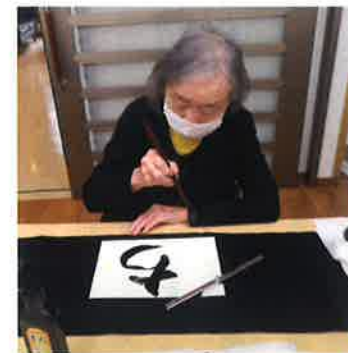
まずは回収から着手し、今後



R-SUD回収用の箱はCT処置室内に設置（廊下に移動して撮影）

は品質と安全性を確保しながら、再使用へと段階的に進めていく予定です。本取り組みは、医療廃棄物の削減と資源循環の推進を通じて、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に貢献します。

現在回収を行なっているカテゴリー2種の直近1年間の使用本数は合計267個で、重さになると13〜40キロほど。医療の質を守りつつ環境への配慮を



な模様の方がきれいだね」「同じようにやっても二度と同じ模様にはならないね」と何かの実験のように（！）とても熱心に取り組んでいました。最後に習字で「う」「ち」「わ」と書いて装飾が完成しました。

フェア当日は暑かったこともあり、多くの方が当施設の「夏だもんで、うちわ作りに来て」というオリジナルうちわ作りのブースを訪れました。

（地域ケア担当 望月亜紀）

岡山済生会総合病院 新人ボウリング大会で 職種を越えたつながりを

5月30日、フェアレイン岡山で「新人ボウリング大会」を開催しました。新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた新人職員向けのレクリエーション

ですが、久しぶりの開催となりました。

看護師、リハビリスタッフ、事務職員など新人32人が参加し、チーム対抗や個人賞をかけた熱戦を繰り広げました。ストライクやスパアが出るたびに歓声が上がり、会場は明るい雰囲気になりました。

普段はなかなか関わる機会の少ない他職種同士でも自然と会話が生まれ、和やかなひとときとなりました。

今回の交流をきっかけに、職種の垣根を越えたつながりが今後のチーム医療にも生かされることを願っています。

（総務課長補佐 仲田泰人）



提供方法の変更で 食事の質向上

〈広島〉特養たかね荘こやうら

食品の衛生管理の質向上と、適時適温で利用者さんに食事を提供することを目的に、5月1日から配食サービスを利用した食事に変更しました。これまでは、当施設から7キロ離れた特養たかね荘で調理した食事を15分かけて専用車で配送し、利用者さんに提供していました。

昨年1月に検討チームを立ち上げ、課題を確認しながら運用方法等を決定して開始。現在は設置した大小1台の冷凍庫に事前に届いた主菜や副菜を保存し、温かいものは湯煎し、冷たいものは自然解凍させ盛り付けています。調理や配膳は、朝食は介護職員、昼食はパート職員、夕食は学生アルバイトを中心に担当しています。

利用者さんからの評判は献立、味付けなどおおむね良好で、食事時間の短縮、残食の減少はその結果を表しているものと思っています。

（済生記者 佐藤 聡）

〈群馬〉老健あずま荘 サクセス奏者の正体は……

5月19日、ユニットバンド「セント・リード」による歌謡曲コンサートが開催され、利用者さんやその家族、職員も含め100人以上が参加しました。バンドのメンバー紹介では、メンバーの1人が前橋病院の外来師長・室岡由美子さんと分かり、参加者からは驚きと歓声が上がりました。「渚のバルコニー」「星降る街角」などが演



奏され、最後まで大盛況でコンサートは幕を閉じました。利用者さんは、「サクセスを弾いているのが看護師さんって聞いて驚いたよ。上手だったね!」と、感激の声を上げていました。当荘で外部の方を招いてのイベントはコロナ後初めて。久しぶりに施設全体がにぎやかで活気あふれる一日になりました。

（済生記者 樺澤亮輝）

〈大阪〉野江病院

認知機能低下を予防する 12のポイントを解説

当院認知症看護認定看護師の藤林美絵子看護師が、城東区地域包括支援センター主催の健康講座「ゆうゆうはつらつ教室」で講師を務めました。

今回のテーマは「高齢者の心の健康と認知症予防」。4月23日に成育北集会所、5月19日に榎並福祉会館で各地域の65歳以上の住民を対象に開催され、各



日20〜30人の方が参加しました。藤林看護師は「認知機能低下を予防する12のポイント」として、定期的な運動、血圧のコントロール、禁煙、こころの健康維持など、認知症にならないために普段の生活で心がける12の項目を分かりやすく説明。参加者と対話したり質問に答えたり、コミュニケーションをとりながら楽しく認知症予防についての講演を行いました。

（済生記者 坂本千晶）

訪問看護ステーション移転で再出発

〈島根〉老健高砂ケアセンター

当施設に併設していた高砂訪問看護ステーションは、5月29



参加した利用者さん約10人は久しぶりに土の感触を確かめながらスコップを使ってセンニチコウやジャニア、ベチュニアなどのほか、ナデシコの苗植えを行いました。

苗を植えた鉢やプランターは現在、日当たりのよい玄関付近に置かれています。花苗が元気に育ってきれいな花が咲くことを皆さん楽しみに待っています。

（済生記者 山田裕樹）

〈新潟〉特養康和園 土の感触を確かめながら 花の苗植えを実施

5月22日に「花の苗植え」を



左から田中有佳理訪問看護所長、福郷梨香訪問看護副科長、小谷美紀訪問看護師、植田智恵子訪問看護師。中央は加藤大司センター長

徐々に少なくなり、運営が困難になることが予想されたことから病院看護部へ相談。大崎恵子看護部長にご理解いただき、移転することになりました。

島根県済生会として訪問看護の機能をなくしてはならないという思いから、本藤由香理外来師長の協力のもと、外来看護部の人的支援を得て新しい形でのスタートとなりました。

（済生記者 木下 英）

行ないました。晴れた場合には屋外で花の苗植えを行なう予定でしたが、当日はあいにくの雨模様となり、屋内で花の苗植えを行ないまし

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

情熱あふれる糖尿病チームの取り組みを紹介

〈岡山〉吉備病院

佐藤真理子師長

「糖尿病ケア+（プラス）」2025年4号（メディア出版）に、当院の

看護師・佐藤真理子師長が連載コーナー「DM TEAM!」に紹介記事を投稿した。

DM TEAMとは、糖尿病患者の療養をサポートする多職種連携チームのこと。佐藤師長を中心に活

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。こ報告ください

「ファン駅伝」で準優勝！

5月11日、企業対抗駅伝2025大阪大会に〈大阪〉泉尾病院のランニングサークルが出場しました。

今回参加した「ファン駅伝」は3人1組でタスキをつなぐ種目です。1区の副キャプテン・西口翔太選手



左からリハビリテーション部西口選手、同岡田選手、庶務課丸橋選手



（リハビリテーション部）は冷静な走りで見事な走り、2区の岡田美香選手（同）ヘタス

手（同）ヘタス

結果はなんと、男女混合の部で準優勝！喜びと驚きで笑顔いっぱい

のチーム。今後も楽しく走り、体力

と絆を深め、患者さんに信頼される病院づくりに励みます！

（大阪・泉尾病院 庶務課主任

丸橋慎介

★皆さんすてきな笑顔!! お互いを信じてタスキをつなぐ駅伝、日々の業務で培った結束力を感じます！

（大空出版 後藤藍子

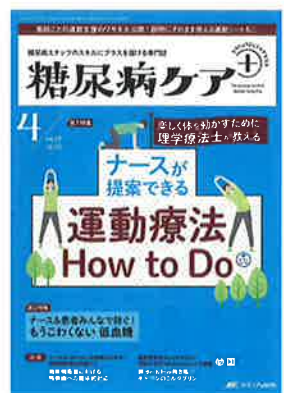
初夏の彩りを感じて

特養なでしこ香川のデイサービス利用者さんによる、壮大な季節の壁飾りが完成しました！玄関ホール

5月19日から毎日、午後の時間を使って利用者さん約30人で制作し、22日に完成。撮影時には利用者さんそれぞれが、お花紙で丁寧につ



カーネーションを胸に飾り、この特別な背景の前で笑顔を見せてくださいました。手作りの温かさと、季節を感じる美しさが見事に融合したひ



動する当院チームは「患者さんのため、チームのため」を掲げ、一人ひと

とりが真剣に取り組んでおり、その姿が誌面で紹介されている。昨年発足したばかりの新しいチームながら、プロフェッショナルチームとして院内外で活躍している。佐藤師長の情熱あふれる思いは、地域の人々や近隣の開業医との連携を深める架け橋にもなっている。

（済生記者 難波美紀）

とときとなりました。（特養なでしこ香川 デイサービス 山田 守）

（本部広報課 大嶋 薫

SLに興奮！

5月27日、外出支援で利用者さんと緑茶・農業・観光の体験型フードパーク「KADODE OIGAWA」へ行きました。天気が少し不安でしたが、当日は利用者さんの運の力で雨が降らず、無事に皆さんと一緒に出発！

限定のラーメンを食べた利用者さ



んは、そのあまりのおいしさに、帰ってきた後も「またあのラーメン食べたいですね」とうっとりとした表情で話していました。

食後は隣接する大井川鐵道の門出駅ホームへ。駅を通過していくSL（蒸気機関車）を一瞬だけでも見る

ことができ、皆さん喜んでいました。

しかし、思った以上にSLの煙の量が多く、一瞬のうちに景色が真っ黒になってびっくり！顔を見合

せて「すごい煙だったね！」と皆で大笑いしました。

（静岡医療福祉センター成人部

済生記者 奥川詩織

★実際に走る蒸気機関車は迫力です！限定ラーメンを前にした利用者さんもうれしそうです。

（メディアカル・リーフ 紫村柊斗

散髪と顔剃りですっきり！

〈兵庫〉特養ふじの里東館・西館、



小規模特養なでしこ神戸では毎月3回、訪問理美容サービス「えるふ」が各フロアを訪問し、1カ月で約60人近くの散髪を一手に引き受けています。5月30日は、ふじの里となでしこ神戸の入居者さん・利用者さん

合計16人が散髪しました。

入居者さんだけでなく、ショートステイの利用者さんの散髪もしてくれ、さらには顔剃りまでしてくれるので、皆さん鏡に向かってうっとり顔。途中で寝ちゃう人もちらほら

……。

ショートステイの方やご家族にも重宝され、散髪に合わせてサービスを利用している方も。入居者さんからも「いつもきれいにしてくれてうれしわ」「顔剃りしてくれるんがええわ」など喜びの声が多く寄せ



当院ベビーフォトはInstagramに掲載中！

京都済生会病院が最優秀賞を受賞しました。

このコンテストは、院内スタッフが撮影しInstagramに投稿した

られています。（兵庫・特養ふじの里 東館介護課 介護主任 井手口 良）

★皆さんの笑顔が目に見えます！きれいになると気分も晴れやかです

ね。（本部広報課 杉山菜央

ベビーフォトで最優秀賞受賞

CB ニュース主催の病院広報アワード2025「ベビーフォトコンテスト」（ピクスタ株式会社協賛）で、



**おたる運河ロードレース
北海道済生会、全員完走！**
6月15日、小樽市の色内ふ頭公園を発着点に「第37回おたる運河ロードレース大会」が開催されました。北海道済生会からも多くの職員が参加。小樽運河や港の美しい景観を背

なっています。
(愛媛・小田特養緑風荘)
★利用者さんと職員の皆さんがお互いを思いやる日常の一コマを思い浮かべ、ほっこりしています。
(メデイカル・リーフ 坂本陽子)

景に、初夏の海風を感じながら力走しました。
当日は曇り空ながらも蒸し暑い中、全員が無事に完走！ 沿道からの温かい声援に背中を押され、笑顔でゴールする姿が印象的でした。
今年は近藤真章支部長の応援もあり、作業療法士の高橋靖明選手が男子5キロ（35歳以上49歳未満の部）で見事5位入賞！ 「高校生のときよりも速く走れた」と語る高橋選手の姿に、仲間たちも大きな拍手を送りました。
来年も当会から多くの選手が参加予定です。小樽の街を舞台に、私たちと一緒に走ってみませんか？ 皆さんのご参加を心よりお待ちしております！
(北海道・小樽病院 広報室長 松尾寛志)

★皆さん無事に完走おめでとうございます。小樽観光もできて一石二鳥ですね……。
(本部広報課 大嶋 薫)

銀幕スターを愛でる会で
思い出話に花が咲く
研修会用の大きなスクリーンを使って「銀幕スターを愛でる会」を5月18日に開催し、50人の利用者さんが参加しました。
普段は明るい食堂が薄暗くなり、



次号予告

済生 No.1154
[令和7年8月号]

済生会の不易流行論 (203) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 露の団姫

口福につぼん (95)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

SMBC日興証券株式会社
——表紙見返し[表紙2]



同好会活動で広がる仲間の輪
(鳥取) 境港総合病院では、マラソ

ン・卓球・ウインタースポーツの三つの同好会が長年にわたり活動中。そして最近、バスケットボール・ソフトボール・登山・ソフトバレーボールの四つの同好会が新たに誕生し、よりぎやかなりなりました。
どの同好会も経験不問で、運動不足の人大歓迎！ 職種や部署を越えてさまざまな仲間が集まり、楽しく活動しています。
ソフトボール同好会には早速、境港市役所から試合のオファーが届き、結成直後から活動が本格化。初練習には10人が集まり、順調なスタートを切りました。登山同好会でも初活動に5人が参加し、山で自然を満喫しました。
普段の仕事では接点がない人たちとも仲良くなり、院内で出会うお互い笑顔になるという声も寄せられています。

(本部広報課長 河内淳史)



登山同好会「とどさん」

お手伝い感謝！
利用者が食事に使用したエプロンやおしほりを洗濯し、職員が洗濯物を抱えて歩いてみると、「こっち持つておいで」「手の運動になってええんよ」と利用者さんたちからお声がかかり、洗濯物を畳む作業をお手伝いしてくれました。
週に1回のシーツ交換のときも、「私にできることがあればやりましょうか」「次はなにしましょうか」と一緒に作業を手伝ってもらっています。まるで利用者さんの日々の生



バスケット同好会には、当院薬剤師のご主人(他院勤務)も参加



バスケット同好会には、当院薬剤師のご主人(他院勤務)も参加

★球技も登山も大好きな私。こんな選択肢があったら目移りしちゃいます……うらやましい限りです。
(メデイカル・リーフ 岩谷純一)



バスケット同好会には、当院薬剤師のご主人(他院勤務)も参加



バスケット同好会には、当院薬剤師のご主人(他院勤務)も参加

缶詰づくりワークショップ

イベントブースツールのご提案

来場者の“思い出作り”をお手伝いします。

塗って楽しむ、缶詰づくり体験！

好きな“いきものフィギュア”を選んで自由に色を塗り、缶に詰め、缶の蓋を締める。気軽に持って帰れる自分だけのフィギュアは、楽しかったイベント参加の思い出として一生、形に残ります。



おたる水族缶とは？

北海道小樽市の観光スポット“おたる水族館”の獣医が監修！水族館生き物の忠実に造形、データ化し3Dプリンタでフィギュア化！地元企業の北海製罐の缶詰めに入った商品です！



ソーシャルインクルージョン商品です



水族缶の製造は、北海道済生会が運営する就労継続支援事業所が担っており、缶詰づくりワークショップの収益は事業所利用者の工賃に充てられます。

お問い合わせは北海道済生会まで！！

商品ラインナップ

(ご自由にお選びください)

- ・トド・アザラシ・フウセンウオ・ペンギン
- ・食べられる魚（ホッケ・ニシン・チョウザメ・オヒョウ）

料金

30,000円（フィギュア100体・缶締機貸出・缶100個・ラベル含む）

(※送料は別途実費分ご負担いただきます。)

お問合せ

北海道済生会 ソーシャルインクルージョン推進室 土谷
TEL:0134-21-2757 MAIL:Tsuchiya@hokkaido-saiseikai.jp



お買い物で気持ちいい！

梅雨の訪れです……。ある日、窓を見つめ「買い物でもして気持ちいいしたいね」と、入居者さんが一言。はい、早速計画実行！ 6月2・3日の2日間、両日共に4人の入居者さんと静岡市駿河区にあるショッピングモール「マークイズ静岡」へ行ってきました。

(本部広報課 杉山菜央)

介護福祉士 井藤友香子

★「銀幕スターを愛でる会」、昔話に花が咲いて、心も若返るすてきなイベントですね。

できました。



残念ながら当日はやはり雨。久々の外出ということもあり、車の中からあたりを見回し皆さんなんだかソワソワ……。到着し、いざモール内を回ってみると、買い物カゴいっぱいにお菓子を入れている方や、家族へのプレゼントを買っている方など、それぞれ思い思いのものを購入していました。「こっちの方が安いね」と節約家の方も。いくつになっても買い物は楽しいものですね。

(静岡・小鹿なでしこ苑)

介護サービス課 神谷 遥

★即断即決、素晴らしい！ 買い物は悩む時間も楽しいもの。いい気分転換になったのではないのでしょうか。

(メデイカル・リーフ 吉村重矢)

済生

[令和7年7月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年7月10日発行

通巻第1153号 (第101巻第7号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人 済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召さ

れて「恵まれない人々のために施療救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。

以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂

本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県

病院 83

診療所 20

介護医療院 3

介護老人保健施設 28

救護施設 1

児童福祉施設 25

老人福祉施設 116

障害者福祉施設 9

看護師養成施設 7

訪問看護ステーション 31

地域包括支援センター 67

地域生活定着支援センター 5

その他 9

合計 404 (数字は令和6年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の57島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万7000人。

離島医療を守るため X線機器更新にご協力ください



瀬 戸内海には700余りの島が点在しています。国内唯一の診療船*「済生丸」が活動している岡山、広島、香川、愛媛県の有人島は84島あり、そのうち医療機関のある島は39島で、充実した医療を受けられる島はわずかです。*定期的に巡回診療を行う船

済生丸は、これまで半世紀を超える長きにわたり、瀬戸内海の約60の島々を巡回し、島嶼(とうしょ)部の方々の診療・検診を行い「海をわたる病院」として親しまれてきました。済生丸の診療で、命を救われた方も少なくありません。

しかし現在、診療に不可欠なX線機器の老朽化が進み、2025年12月までに更新しなければなりません。今回、機器更新を実現するためにクラウドファンディングに挑戦します。

離島の人々が安心して暮らせる医療環境を守りたい——。
医療機器の更新とサービスの強化により、さらに多くの島民の方々に必要な医療を提供し続けるために、皆さまの温かいご支援をどうかよろしくお願いします。



海をわたる病院
済生丸
S A I S E I M A R U

ご寄付募集中

クラウドファンディング
目標金額 **3,000万円**

06/02 , **08/29**
09:00 23:00

お問い合わせはこちら

☎ **086-253-6071**

✉ saiseimaru@okayamasaiseikai.or.jp

済生丸 レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/saiseimaru>

